

第2章 豊岡市の概要

1 豊岡市の現況

(1) 位置・地勢

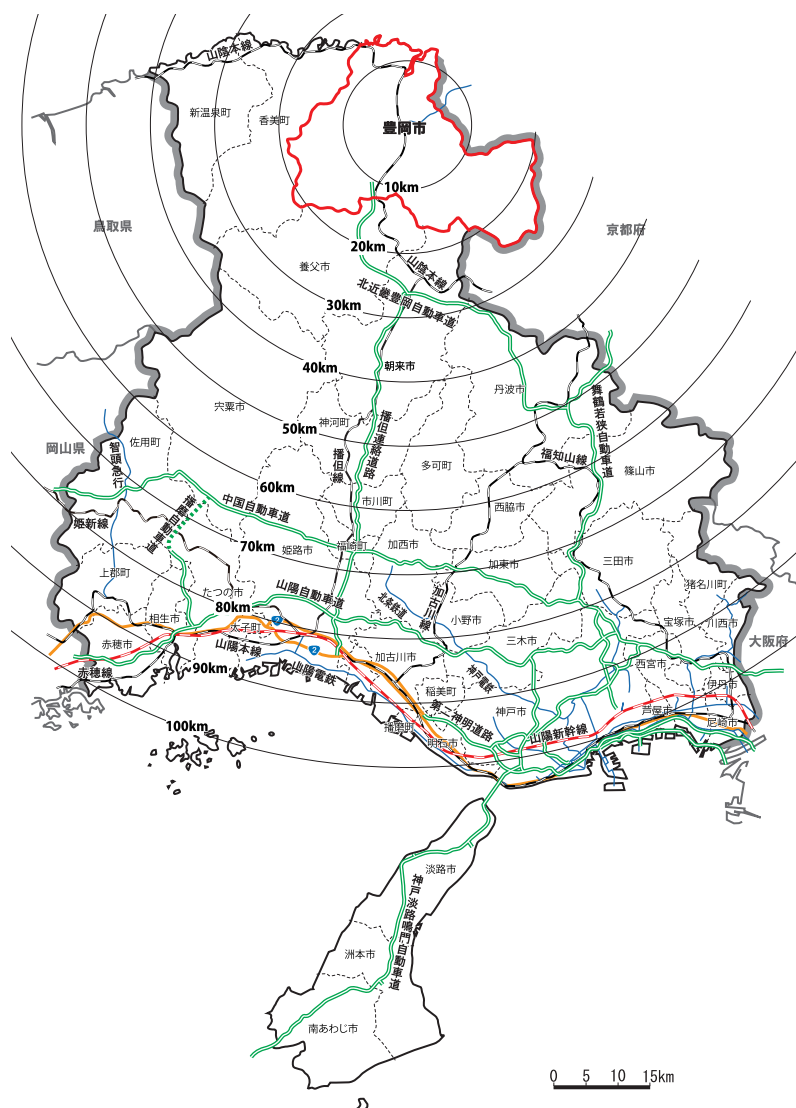
本市は、図表2-1に示すとおり、兵庫県の北東部に位置し、北は日本海、西は香美町、南は養父市と朝来市、東は京都府に接しており、面積は697.55 k m²で県下最大です。

市域の約8割を山林が占め、中央部には一級河川円山川が日本海に注いでおり、海岸部は山陰海岸国立公園に、山岳部の一部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、四季を織りなす多彩な自然に恵まれています。

国の特別天然記念物であるコウノトリの野生復帰への取り組みが進んでおり、オオサンショウウオやクマタカなど希少生物も生息しています。

全国的に有名な城崎温泉や城下町出石、神鍋高原スキー場、竹野浜海水浴場等の観光地を有し、多くの観光客が訪れており、年間の観光客は470万人以上にのぼっています。

また、地場産業としては、全国の4大産地の一つである鞆や出石焼などの生産が行われています。



図表2-1. 豊岡市の位置

(2) 歴史

穏やかな流れの円山川流域は、古くから大陸との交易の舞台であり、弥生時代には当時の最先端の文物が数多く持ち込まれました。奈良時代には、国の役所「国府」や、国ごとに置かれた「国分寺」「国分尼寺」が建立され、但馬国の中心地として栄えました。

室町時代には、有力大名で「六分一衆」と呼ばれた山名氏の本拠地として、出石に此隅山城が築かれ、戦国時代には有子山城が築されました。

江戸時代になると、壮大な石垣をもつ出石城を中心にした出石藩と、陣屋をもつ豊岡藩の2藩が置かれ、出石藩を中心に栄えました。

明治4年の廃藩置県、府県改置を経て、但馬、丹後及び丹波の一部を管轄する豊岡県が設置され、県庁所在地として大いに繁栄しました(明治9(1876)年、豊岡県は廃止され、兵庫県に併合されました)。その後、時代の進展とともに市町村も合併等の変遷をたどりましたが、平成17(2005)年には、兵庫県の北東部の1市5町(豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町)が合併して、現在の豊岡市に至っています。

こうした歴史を背景に、本市には、自然の恵みと、それを受ける人々によって受け継がれてきた多彩な歴史文化が残されています。そのうち、国指定の文化財である中嶋神社本殿をはじめ、但馬国分寺跡、旧大岡寺庭園など多彩で豊富な歴史文化遺産を有しており、平成30(2018)年1月1日現在、国指定・登録文化財48件、県指定文化財59件、市指定文化財241件、合計348件の指定・登録文化財があります。



(3)人口・世帯数

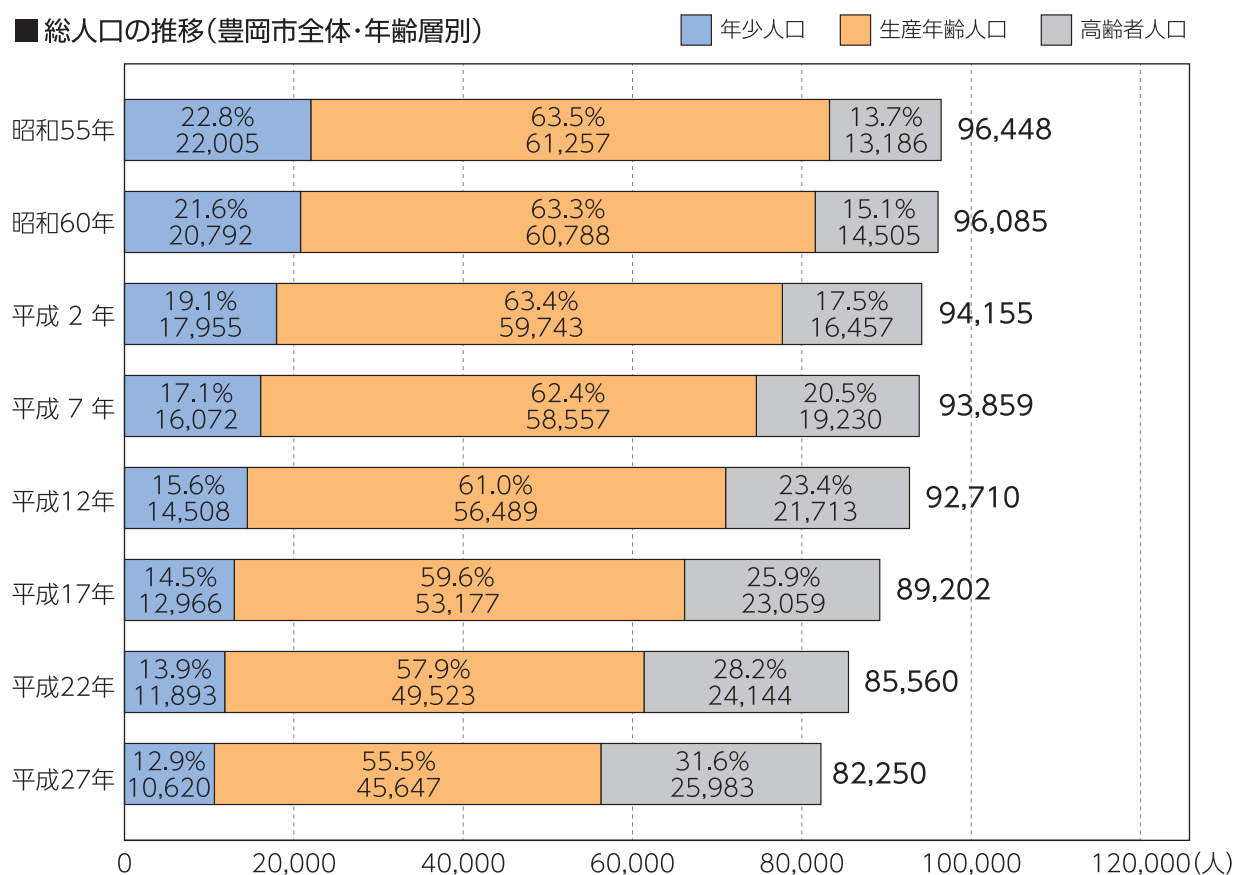
本市の人口は、図表2-2に示すとおり、平成27(2015)年(国勢調査)で82,250人と昭和55年以降減少傾向が続いています。特に、年少人口の減少は著しく昭和55年から50%以上の減少となっています。

平成27(2015)年における年齢3階級別人口は、年少人口が12.9%、高齢者人口31.6%で、県平均(それぞれ12.9%、27.1%)と比較すると、特に高齢者人口の割合が高くなっています。団塊の世代が高齢者世代に入ってきており、今後もしばらくは高齢化が進行するものと予想されます。

世帯数は、図表2-3に示すとおり、平成27(2015)年(国勢調査)で30,189世帯と増加傾向にあるものの、その伸びは鈍化しています。

平成17(2005)年から平成27(2015)年の5歳階級別人口移動状況をみると、図表2-4に示すとおり、15歳から24歳が1,475人と減少しており、進学、就職世代の転出傾向がうかがえます。

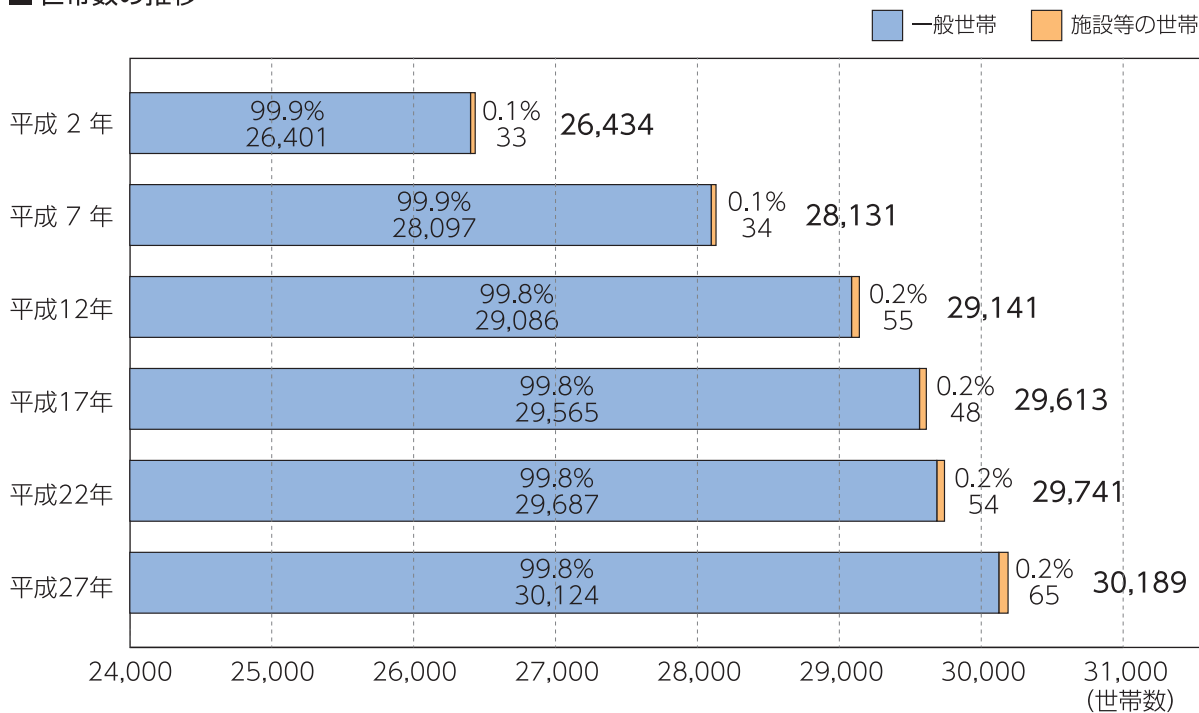
人口密度については、図表2-5に示すとおり、豊岡市街地では40人/ha以上の区域が見られ、人口の集積が進んでいます。一方で、図表2-20に示すとおり、農山漁村部の人口密度は、5人/haを下回る場所が多い状況となっています。



図表2-2. 総人口の推移(豊岡市全体・年齢層別)

資料:国勢調査

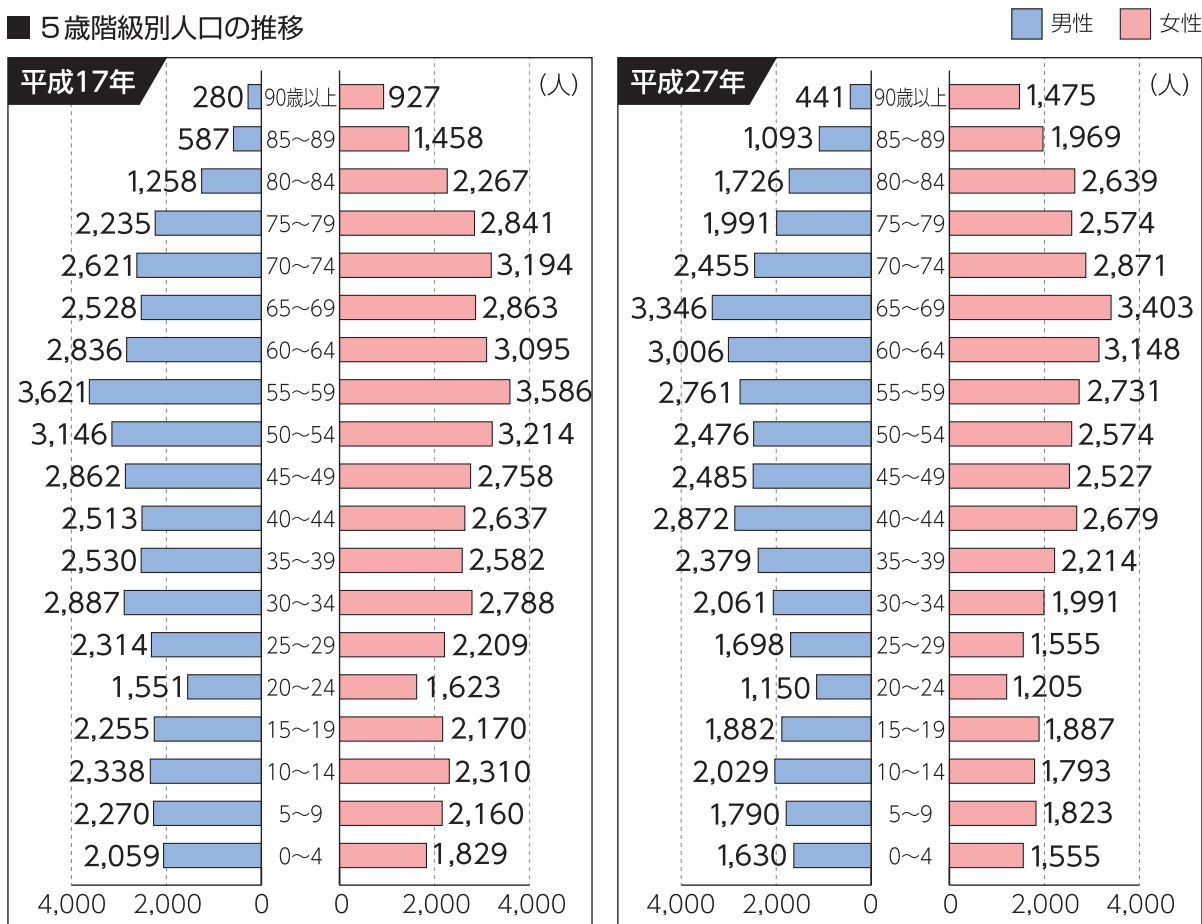
■ 世帯数の推移



図表2-3. 世帯数の推移

資料: 国勢調査

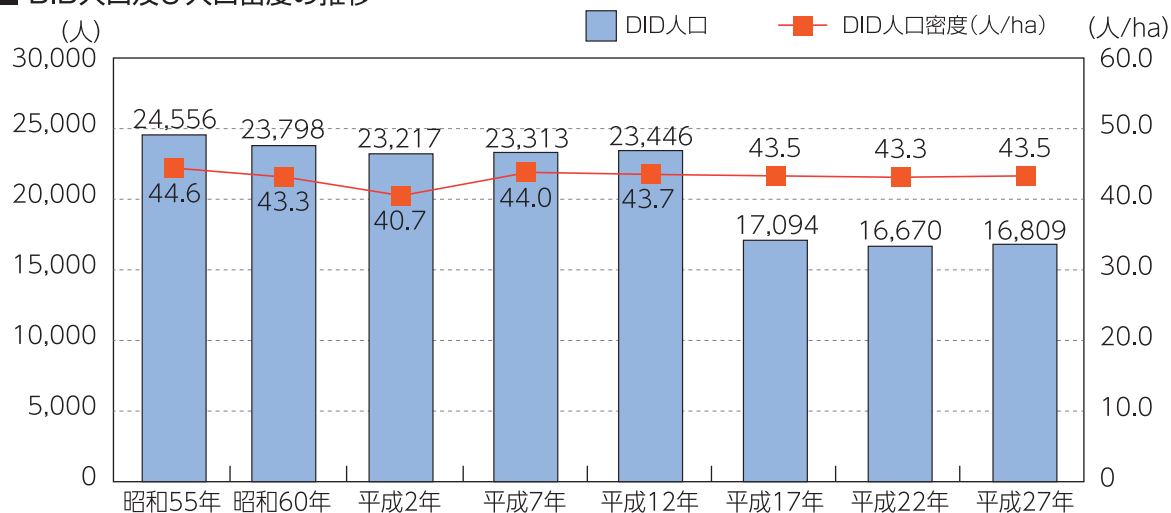
■ 5歳階級別人口の推移



図表2-4. 5歳階級別人口の推移 (左: 平成17年、右: 平成27年)

資料: 国勢調査

■ DID人口及び人口密度の推移

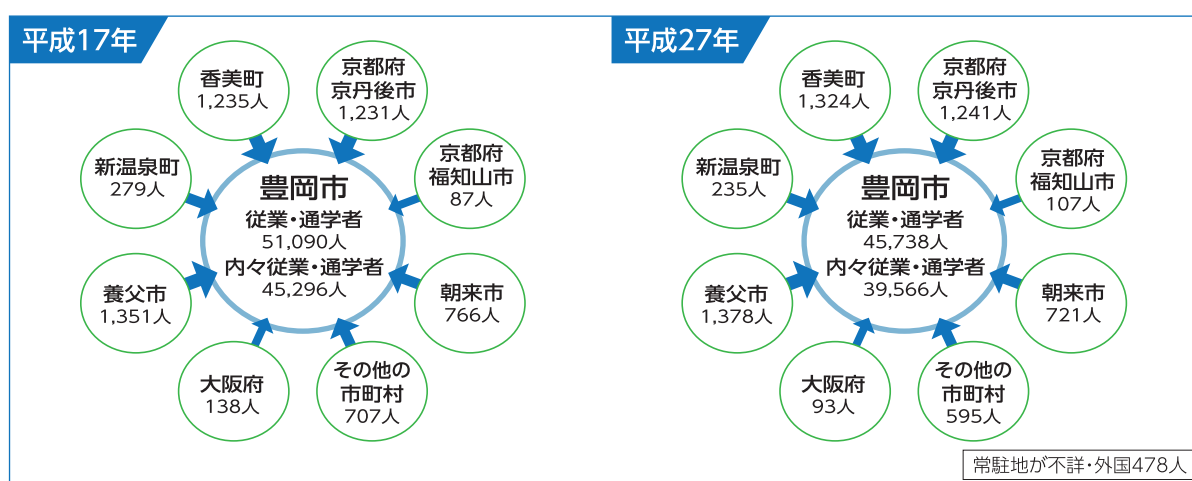


図表2-5. DID人口及び人口密度の推移

資料: 国勢調査

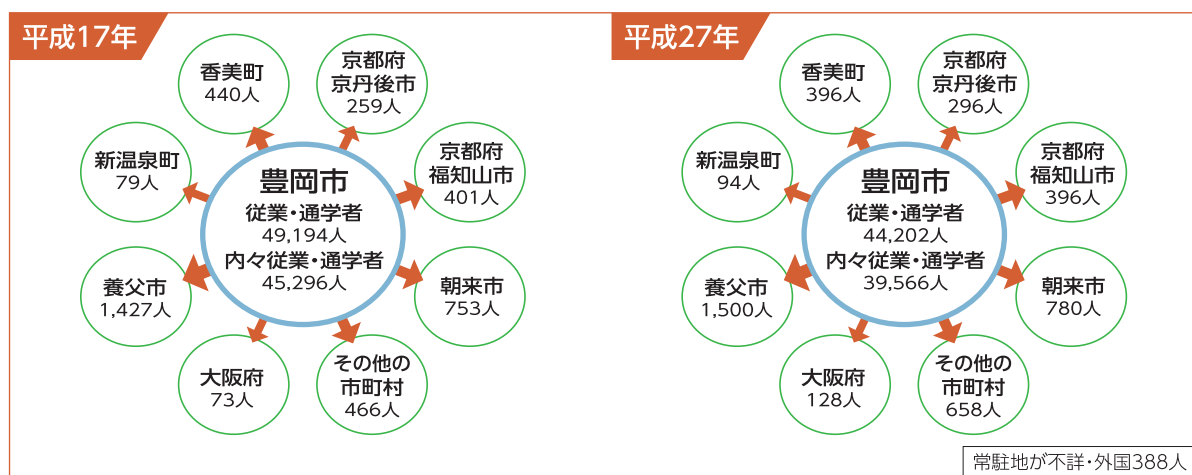
※DID（「人口集中地区」）とは、人口密度1平方キロメートル当たり4,000人以上の地区のこと。

平成27(2015)年における流出人口(通勤通学)比率は、図表2-6、2-7に示すとおり、流出人口が75.1%と流入人口を下回り、昼間人口割合は103.5%となっています。しかし、流入率は徐々に減少しつつあります。



図表2-6. 通勤通学動向(流入)

資料: 国勢調査

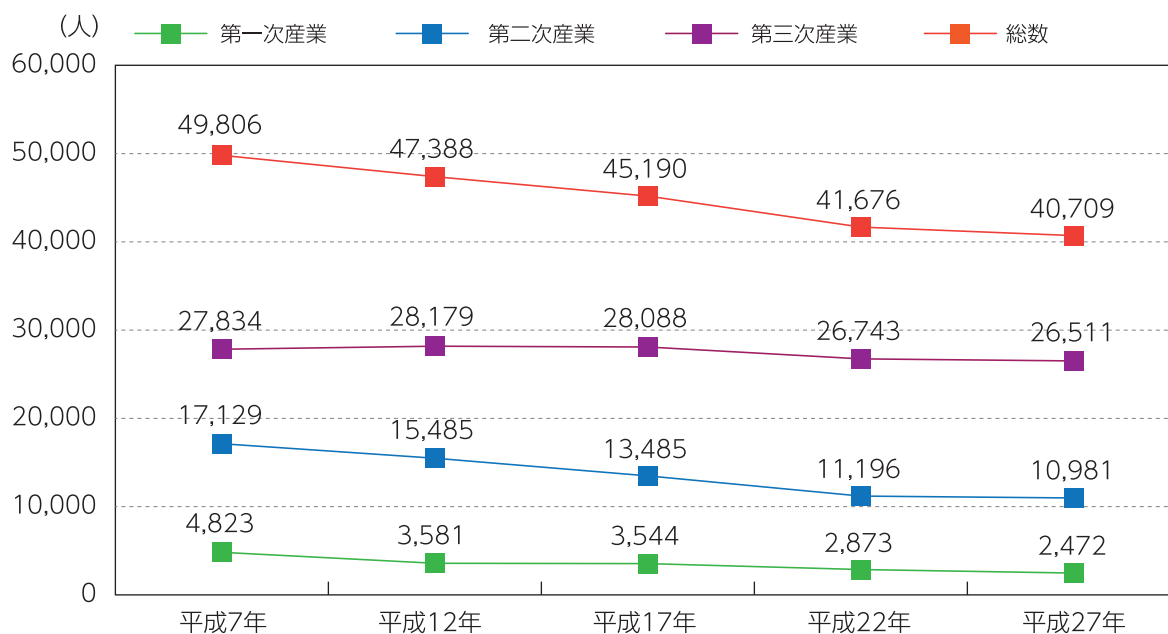


図表2-7. 通勤通学動向(流出)

資料: 国勢調査

(4) 産業

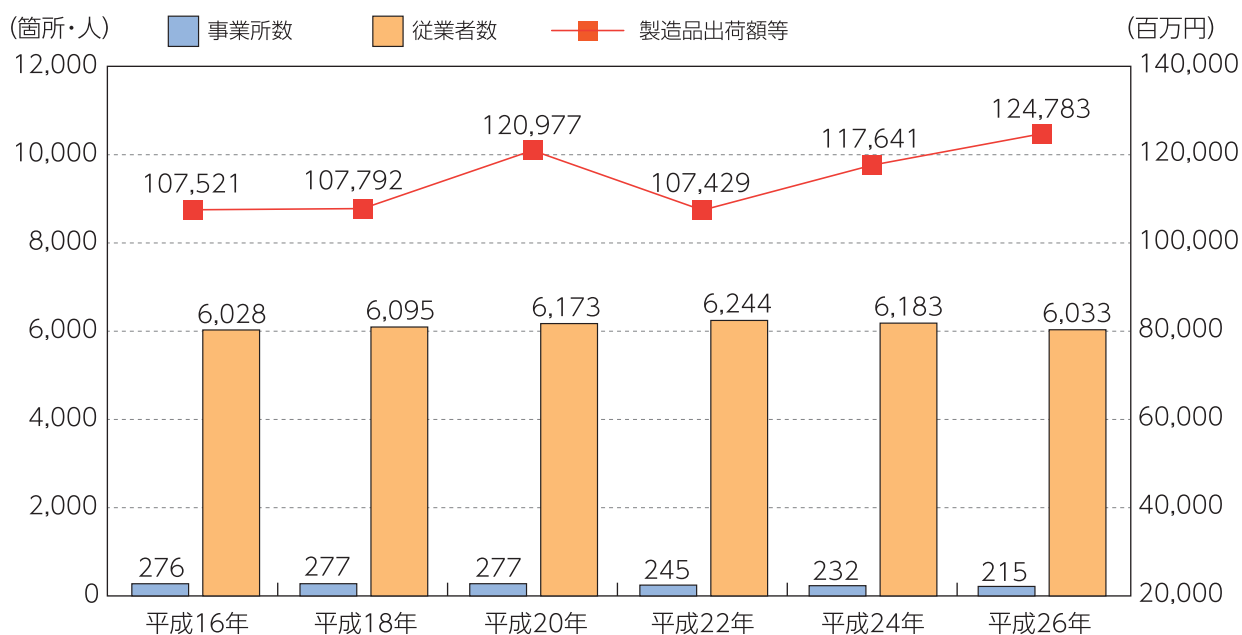
平成27(2015)年における産業別就業者の構成比は、図表2-8に示すとおり、第3次産業就業者が65.1%と最も高く、次いで、第2次産業就業者が27.0%、第1次産業就業者が6.1%となっています。平成7(1995)年からの傾向をみると、第3次産業就業者は微減傾向、第2次産業就業者は減少傾向、第1次産業就業者も減少傾向にあります。



図表2-8. 産業別就業人口

資料: 国勢調査

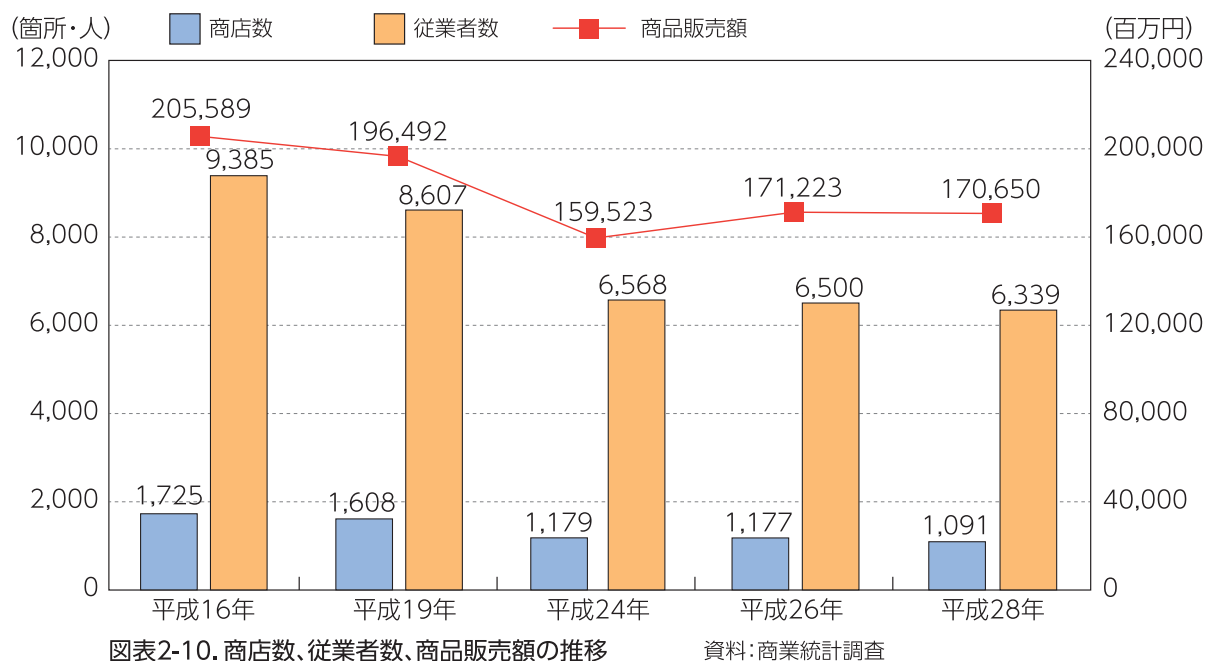
平成16(2004)年から平成26(2014)年において、本市の事業所、従業者数は図表2-9に示すとおり、ほぼ横ばいとなっており、製造品出荷額等は微増しています。



図表2-9. 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

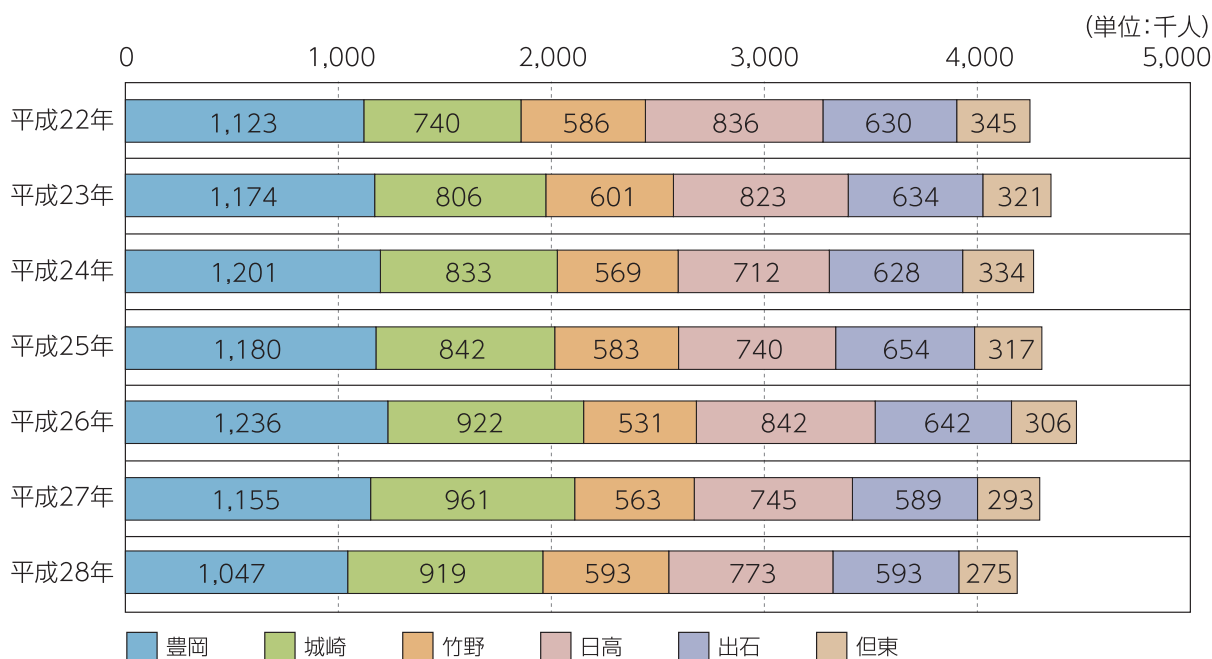
資料: 工業統計書資料(平成16年は旧市町の合計値)

平成16(2004)年から平成28(2016)年において、本市の商店数、従業者数、商品販売額は図表2-10に示すとおり、ともに減少傾向となっています。



平成22(2010)年度から平成28(2016)年度における本市の主要観光地の入り込み観光客数は図表2-11に示すとおり、ほぼ横ばいですが、城崎地域への観光入り込み客数が近年微増傾向にあります。

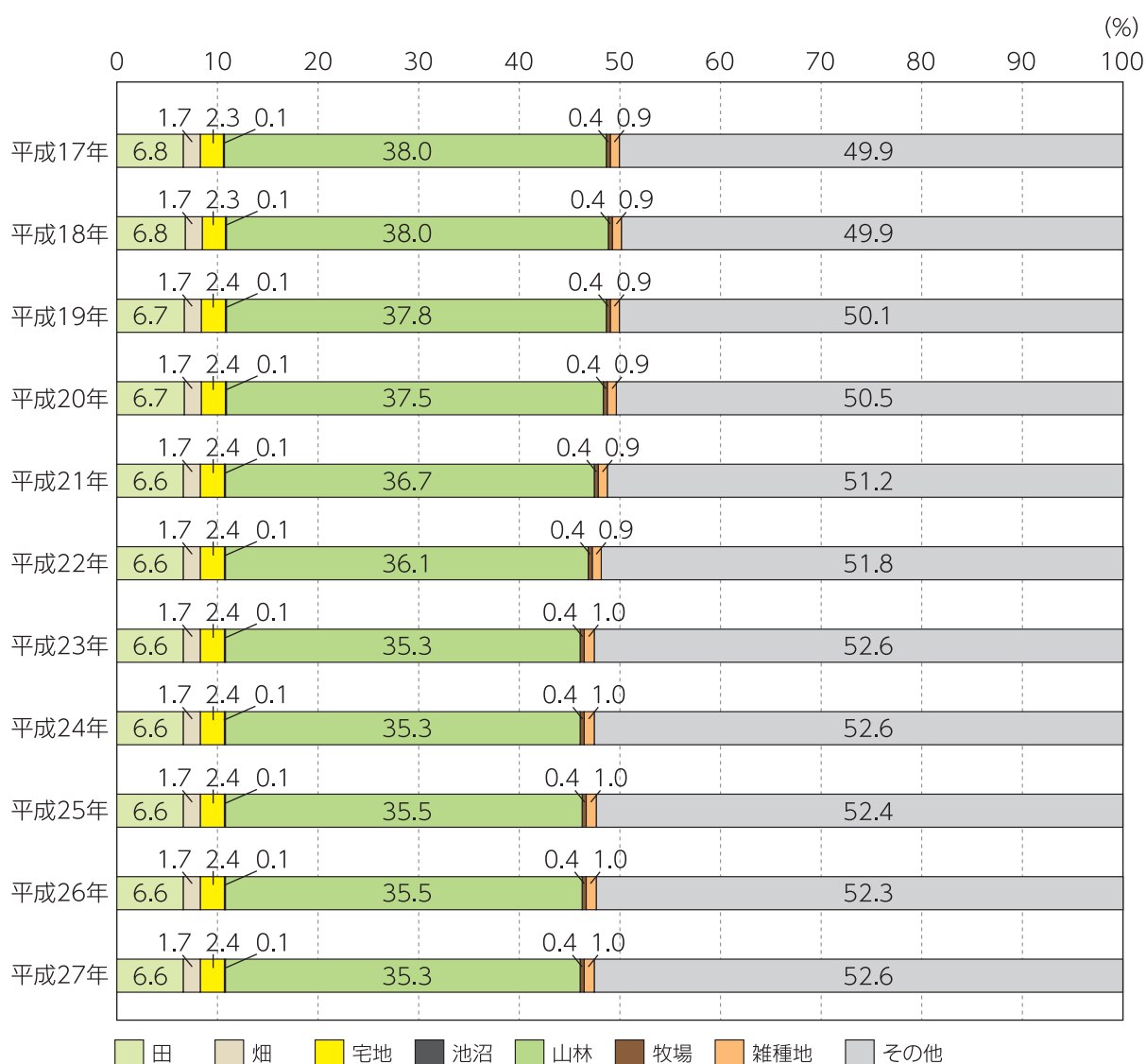
観光入り込み客は日帰客が多い一方、近年、県外客が増加傾向にあることから、観光の広域化が進んでいることがうかがえます。



(5) 都市の状況

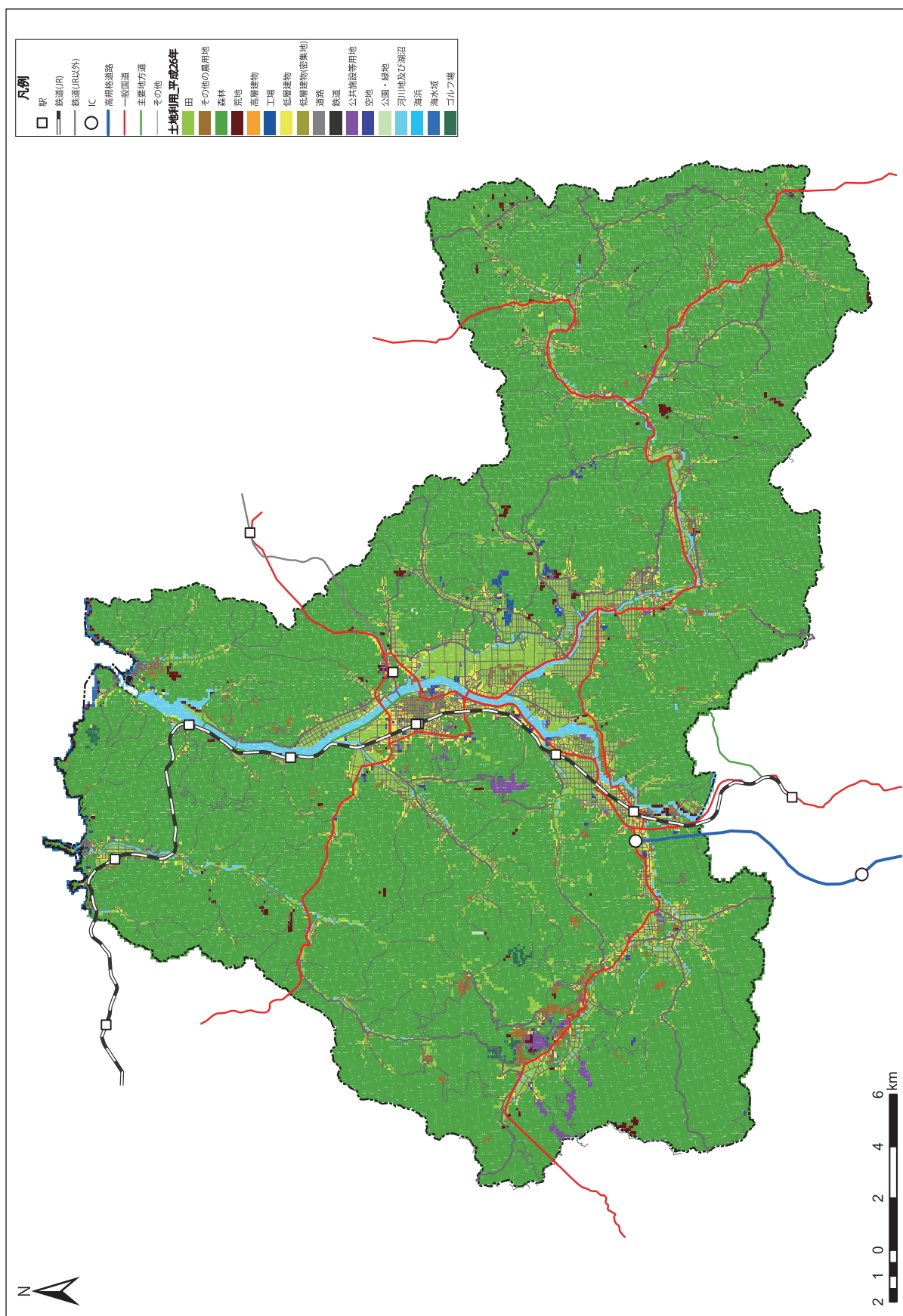
ア 土地利用の状況

本市の土地利用面積は、図表2-12に示すとおり、田畑、山林等の自然的な土地利用は微減傾向にあり、その一方で宅地は現在も微増傾向にあります(土地利用現況については、次頁の図表2-13を参照のこと)。



図表2-12. 土地利用面積の推移

資料：兵庫県統計書



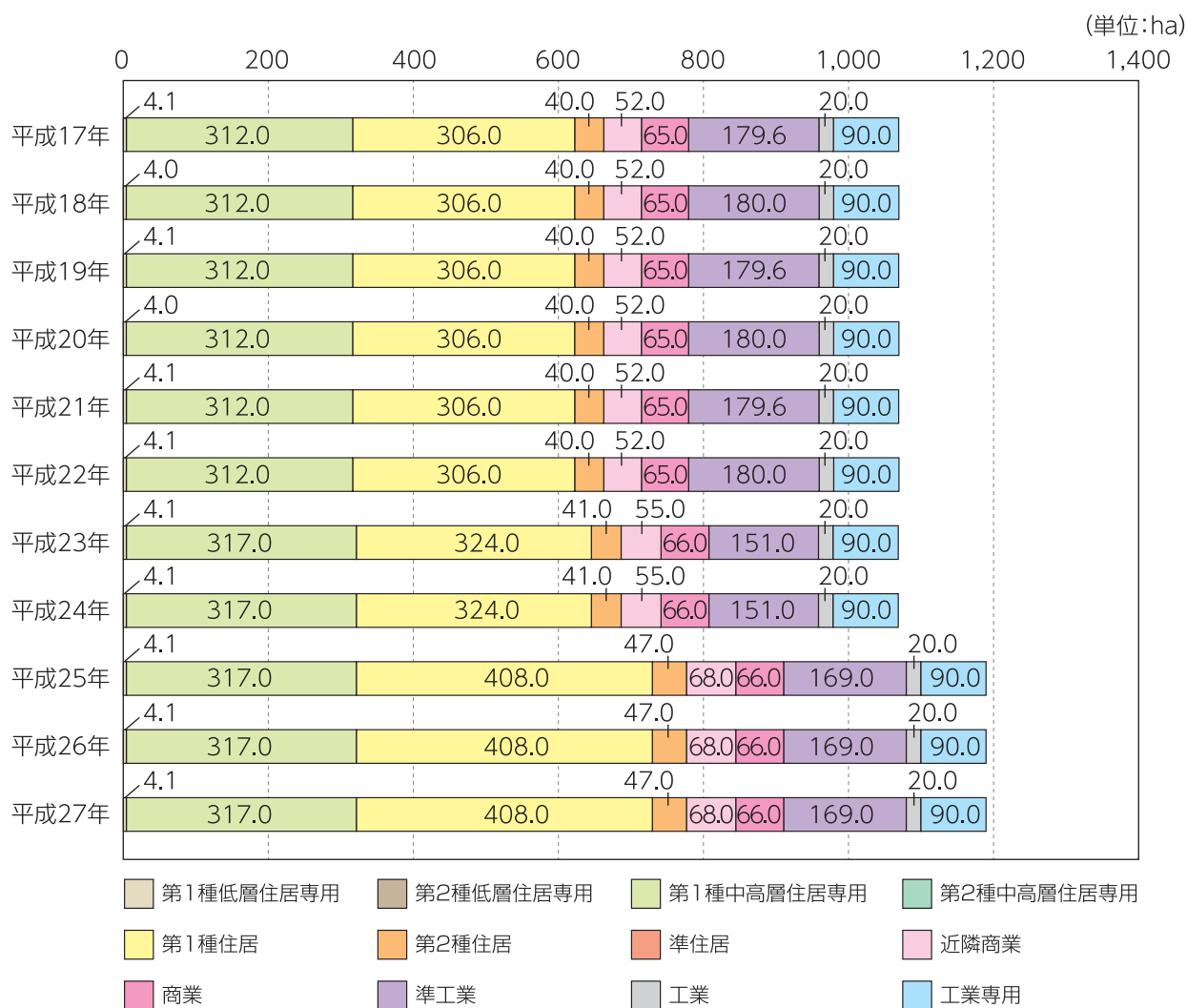
図表2-13. 土地利用現況図(平成29(2017)年10月末現在)

資料:国土数値情報

イ 都市計画の状況

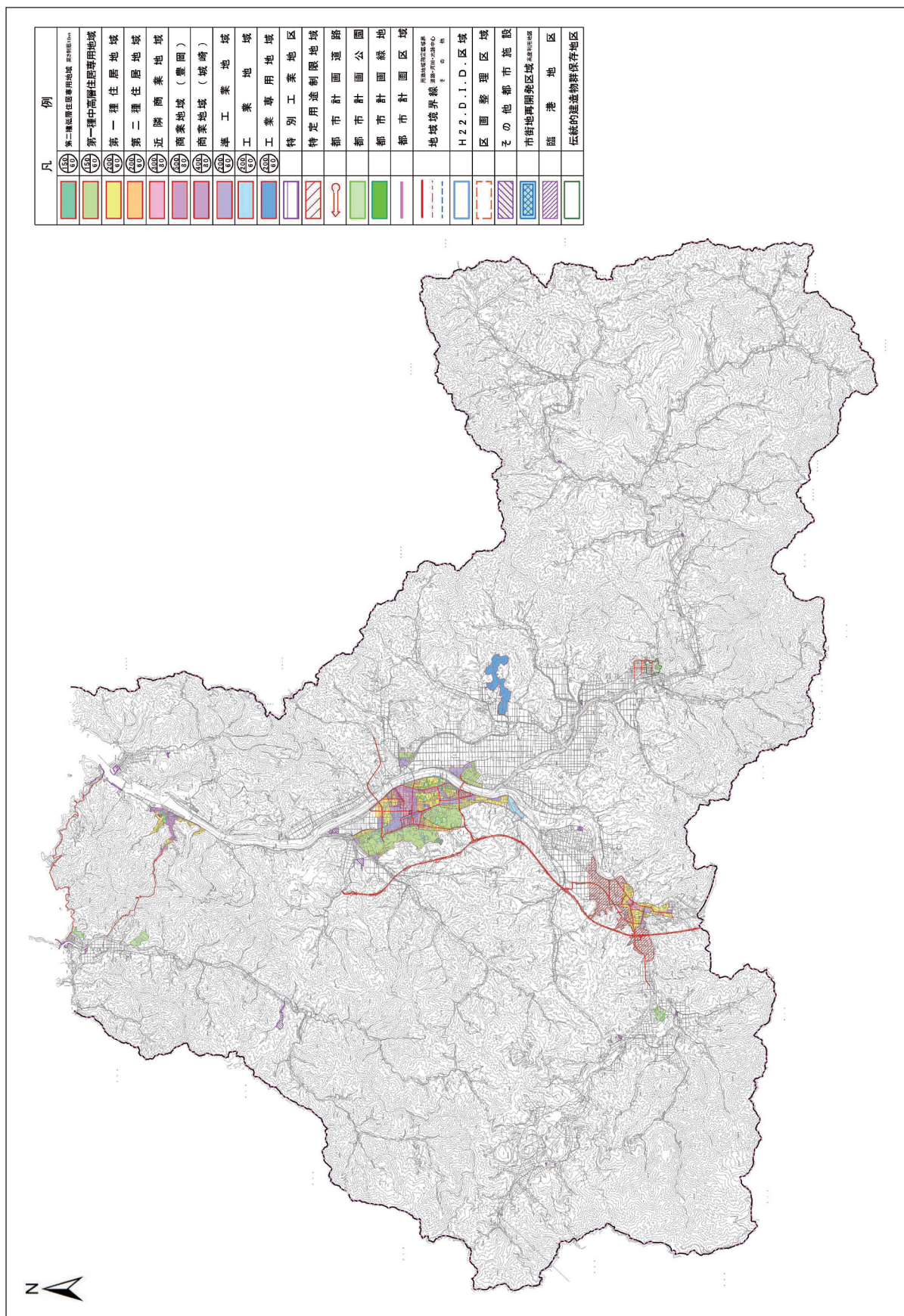
本市の都市計画の状況としては、都市計画区域が、平成17(2005)年に1市5町で合併以降、それまでの旧豊岡都市計画区域、旧城崎都市計画区域、旧出石都市計画区域、旧日高都市計画区域を踏襲した形を採ってきましたが、平成22(2010)年に市域全体を都市計画区域に編入し、現在に至っています。なお本市では、線引き(市街化区域及び市街化調整区域の区分)は行っていません。

用途地域の状況を見ると、図表2-14に示すとおり、平成24(2012)年まで1,068haでしたが、平成25(2013)年にJR江原駅を中心とする市街地およびその周辺部、並びに稲葉川土地区画整理事業区域の適正な土地利用を誘導するため、新たに用途地域の指定を行い、現在は1,189ha指定されています。内訳は、第1種住居地域が408haと最も広く、次いで第1種中高層住居専用地域が317haとなっています(次頁の図表2-15を参照のこと)。



図表2-14. 都市計画の状況

資料: 兵庫県統計書



図表2-15. 都市計画図(平成30(2018)年3月末現在)

資料:豊岡市

ウ 開発許可の状況

本市では、市内全域において、500㎡以上の開発行為（都市計画法に基づく開発許可を受けた行為などは除く）を行おうとする場合に、豊岡市良好な地域環境を確保するための開発行為の手続等に関する条例に基づく開発許可申請の手続き（市長の許可）が必要となっています。また、開発面積等によっては、緑豊かな地域環境の形成に関する条例（以下、「緑条例」という。）や豊岡市景観条例に基づく手続きが必要になることがあります。さらに市内全域において、都市計画法に基づく開発行為（3,000㎡以上の開発行為）を行おうとする場合は、兵庫県知事の許可が必要となっています。

本市の開発許可の状況を見ると、図表2-16に示すとおり、毎年平均して20件前後の開発許可申請があり、総面積としては30,000㎡から40,000㎡程度となっています。最も開発許可の多い地域は豊岡地域ですが、近年では北近畿豊岡自動車道の延伸の影響から日高地域も開発動向が見られます。

図表2-16. 地域別の開発許可面積の推移

単位：件数（件）、面積（㎡）

年 度		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
計	件数	20	26	23	21	24	19	21	25	23	26
	面積	55,973.52	45,973.97	97,593.27	31,958.55	39,205.10	32,120.29	47,808.22	40,980.59	33,844.18	142,168.66
豊岡地域	件数	12	15	8	10	14	13	7	14	9	17
	面積	40,141.01	28,370.09	67,145.39	15,210.24	21,788.64	23,222.06	15,540.02	23,400.65	12,506.70	131,172.89
城崎地域	件数	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—
	面積	—	—	1,264.27	—	—	—	—	—	974.08	—
竹野地域	件数	1	—	—	—	—	—	2	—	1	—
	面積	721.85	—	—	—	—	—	1,256.86	—	952.09	—
日高地域	件数	5	6	12	7	6	5	8	8	7	7
	面積	11,941.27	10,071.69	27,002.75	11,264.52	8,337.57	8,258.89	25,738.35	10,144.21	8,849.89	7,777.48
出石地域	件数	2	5	2	2	3	1	2	2	4	1
	面積	3,169.39	7,532.19	2,180.86	2,276.06	6,159.39	639.34	3,769.10	6,903.73	7,899.03	935.15
但東地域	件数	—	—	—	2	1	—	2	1	1	1
	面積	—	—	—	3,207.73	2,919.50	—	1,503.89	532.00	2,662.39	2,283.14

※ 年度毎の集計は、許可年月日の時点で集計を行っている。

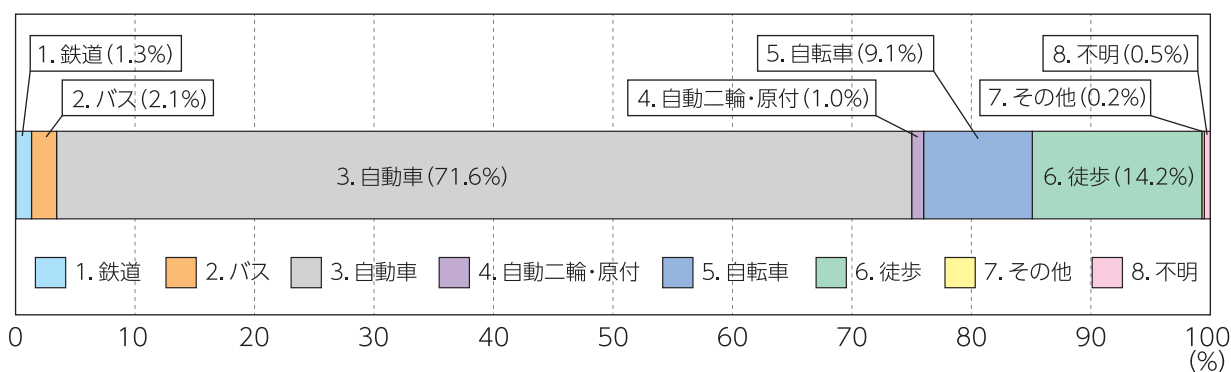
資料：豊岡市資料

(6) 交通環境及び道路の状況

ア 市民の交通行動

市民の日常の行動形態として、交通分担率から見ると、図表2-17、2-18に示すとおり、地方都市の典型とも言える自動車利用が最も多く70%を超えています。次いで徒歩や自転車の利用が20%を超えており、市街地は比較的にコンパクトにまとまっていることをうかがわせる結果となっています。

一方で鉄道やバスといった公共交通の利用は数%にとどまっており、将来の高齢者世代の増加を考えると、自動車利用から公共交通利用へと交通手段のシフトを如何に図っていくかが課題と言えます。



図表2-18. 交通手段分担率 (平成22(2010)年)

1. 鉄道	2. バス	3. 自動車	4. 自動二輪・原付	5. 自転車	6. 徒歩	7. その他	8. 不明	合 計
5,237	8,426	290,184	4,202	36,947	57,688	662	1,860	405,206
1.3	2.1	71.6	1.0	9.1	14.2	0.2	0.5	100.0

資料: 平成22 年近畿圏パーソントリップ調査

イ 公共交通の状況

本市の公共交通機関は、鉄道路線としてJR山陰本線と京都丹後鉄道が通っており、市内にはJRが江原駅、国府駅、豊岡駅、玄武洞駅、城崎温泉駅、竹野駅の6駅、京都丹後鉄道宮豊線が豊岡駅、コウノトリの郷駅の2駅設置されています。豊岡駅の利用者が最も多く、年間約70万人の利用が見られます(図表2-19を参照のこと)。

バス路線網については、民間路線バス、市街地循環バス(コバス)、市営バス(イナカー)、地域主体交通(チクタク)の4つのモードで構成されています。

これらの路線網は図表2-20に示すとおり、主要な鉄道駅や地域の中心部と、各地域の集落を結んでいます。

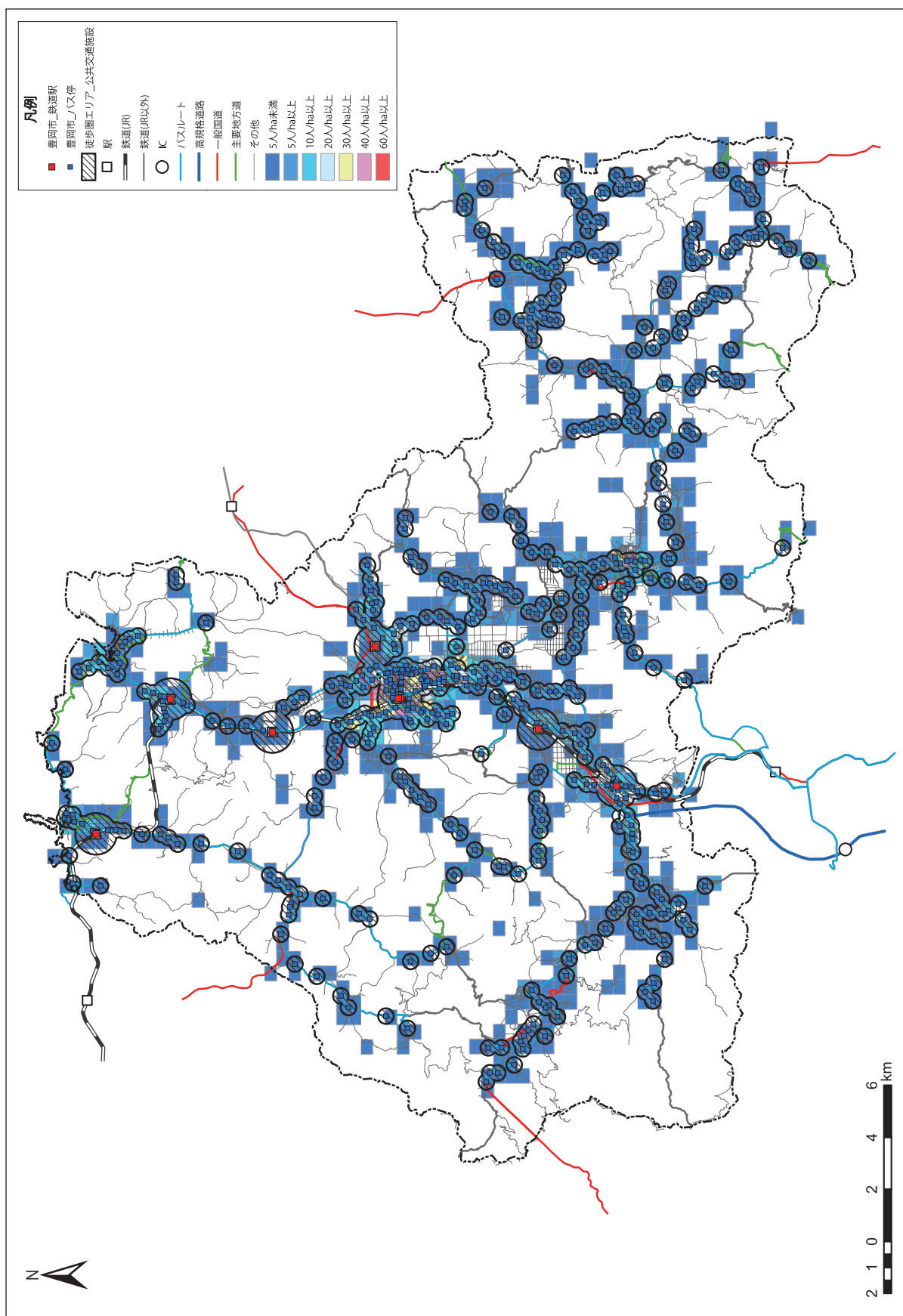
今後は、住民が積極的に利用することで、この公共交通ネットワークを維持していくことが大きな課題となります。

図表2-19. 市内鉄道各駅の乗車人員の推移

(人)

	駅 名	平成26年度 1日平均乗車人員	平成27年度 1日平均乗車人員	平成28年度 1日平均乗車人員	平成29年度 1日平均乗車人員
JR山陰本線	江 原	617	637	608	587
	国 府	82	88	95	91
	豊 岡	1,895	1,929	1,886	1,846
	玄武洞	49	30	32	25
	城崎温泉	1,070	1,080	1,028	1,048
	竹 野	268	276	263	226
京都丹後鉄道	豊 岡	198	220	201	211
	コウノトリの郷	1	2	2	3

資料：兵庫県交通政策課



図表 2-20. 公共交通の利便性と人口密度(平成27(2015)年)

資料：豊岡市

ウ 道路の状況

本市の道路網は、図表2-23に示すとおり、国道を中心に構成され、内陸部から日本海沿岸部まで、県道及び市道でネットワークされ、都市の骨格を形成しています。平成29(2017)年3月には北近畿豊岡自動車道(八鹿日高道路)が日高神鍋高原インターチェンジまで開通し、広域幹線道路網の整備、都市部とのアクセス性向上も進みつつあります(図表2-21、2-22も参照のこと)。

図表2-21. 道路の整備状況

	道路延長(m)		
	総延長	舗装	未舗装
国 道	112,656	112,645	11
県 道	295,592	269,962	25,630
市 道	1,238,374	869,899	368,475
全 体	1,646,622	1,252,506	394,116

資料：平成28年版豊岡市統計書

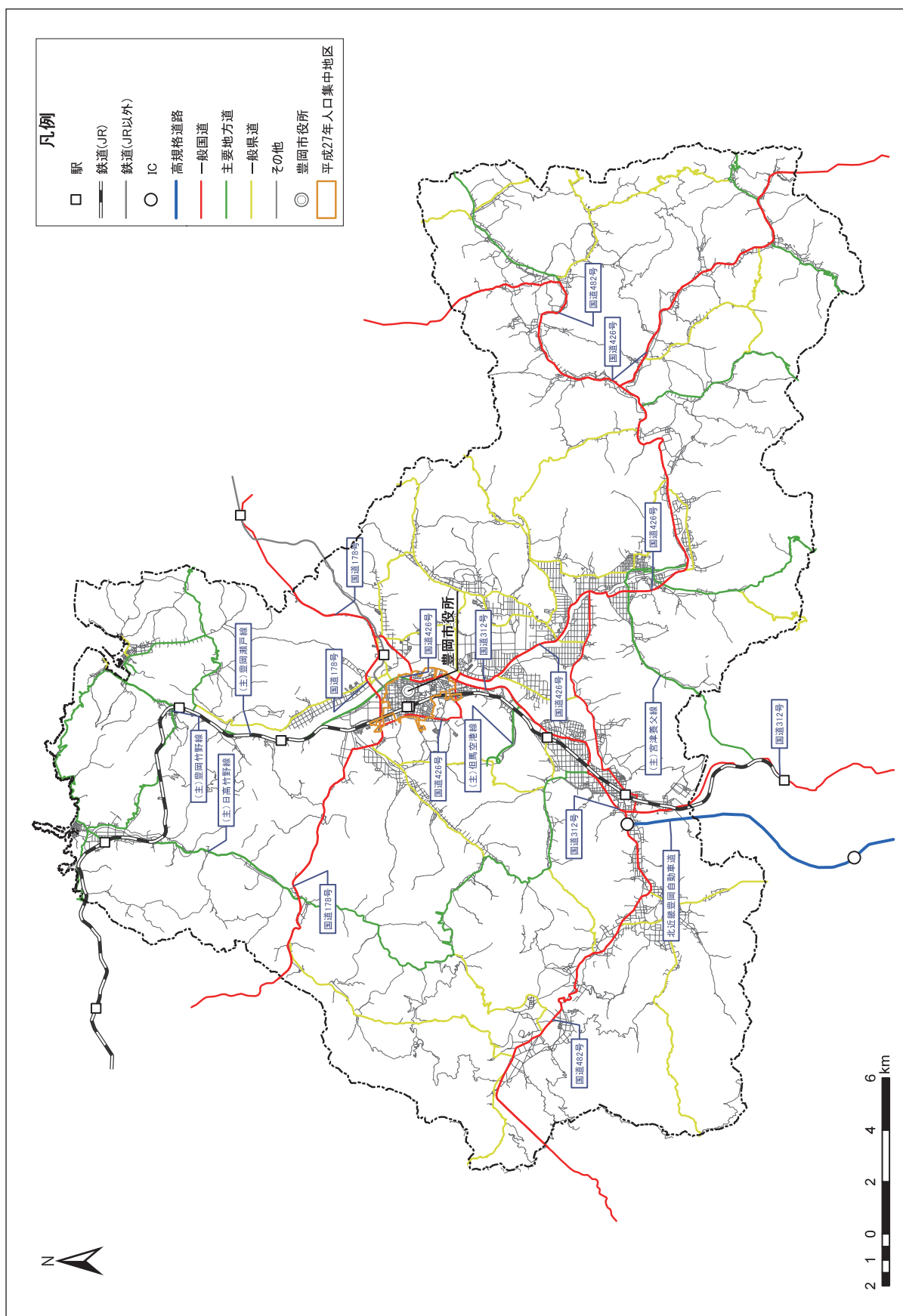
図表2-22. 都市計画道路の改良率(平成28(2016)年)

平成28(2016)年3.31現在

都市計画区域名	都市計画道路全体	自動車専用道路のみ	幹線街路のみ			区画街路のみ	特殊街路のみ
			計	うちA区域	うちB区域		
豊岡都市計画	65.69%	0.00%	83.37%	78.10%	98.51%	100.00%	100.00%
兵庫県都市計画合算	80.56%	67.61%	80.95%	85.64%	80.03%	95.68%	96.83%

資料：平成28年都市計画現況調査(道路―都市別内訳表)

※改良率とは、各道路種別の計画延長に対する改良済及び概成済の延長の割合
※幹線街路のA区域とは 用途地域設定区域内でDID区域内、B区域とは用途地域設定区域内でDID区域外



図表2-23. 道路網の状況(平成29(2017)年10月末現在)

資料: 豊岡市

(7) 都市機能の状況

ア 医療施設の状況

医療施設は、総合病院である公立豊岡病院が市街地にあり、出石、日高には医療センターが配置されています。また、市内各地域に診療所や医院が配置されており、概ね地域の中心部には病院、診療所等の医療施設が配置されている状況です。

しかし、住民にとって身近な生活圏レベルで見ると、図表2-24に示すとおり、徒歩圏内人口カバー率は71.4%です。すなわち30%の市民、主として農山漁村部の住民にとっては、医療施設の多くが徒歩圏から外れている状況です。さらなる高齢化の進展が見込まれる中、交通利便性の向上を含めた市民生活の利便性確保、市民サービスの提供の維持存続が大きな課題であると言えます。

図表2-24. 医療施設の徒歩圏人口カバー率

	平成27年
医療施設徒歩圏人口カバー率(%)	71.4
徒歩圏平均人口密度(人/ha)	8.3

※平成27年国勢調査のデータを基に図上計測で算出

※徒歩圏内とは、半径500m以内を指す。

イ 福祉施設の状況

健康福祉施設は、地域レベルには概ね配置されている状況です。

しかし、住民にとって身近な生活圏レベルで見ると、図表2-25に示すとおり、徒歩圏内人口カバー率は23.6%と低く、豊岡市街地部では充実しているものの、特に出石や日高、但東といった中山間地域では、十分とは言い難い状況です。福祉施設関連についても、さらなる高齢化の進展が見込まれる中、アクセス性向上によるサービスの提供の充実が大きな課題であると言えます。

図表2-25. 福祉施設の徒歩圏人口カバー率

	平成27年
高齢者福祉施設徒歩圏人口カバー率(%)	23.6
徒歩圏平均人口密度(人/ha)	8.1

※平成27年国勢調査のデータを基に図上計測で算出

※徒歩圏内とは、半径500m以内を指す。

ウ 商業施設の状況

商業施設については、特に日用品や一部買い回り品も購入可能なスーパーが、各地域の中心に配置されています。また、食料品を中心に日常生活に必要なものが購入可能な商業施設、コンビニエンスストア等は、幹線道路沿道等の一部地域に立地しているものの、身近な生活圏については十分とは言い難い状況です(図表2-26、2-27を参照のこと)。

図表2-26. 商業施設の徒歩圏人口カバー率

	平成27年
商業施設徒歩圏カバー率(%)	68.9
徒歩圏平均人口密度(人/ha)	10.1

※平成27年国勢調査のデータを基に図上計測で算出
※徒歩圏内とは、半径500m以内を指す。

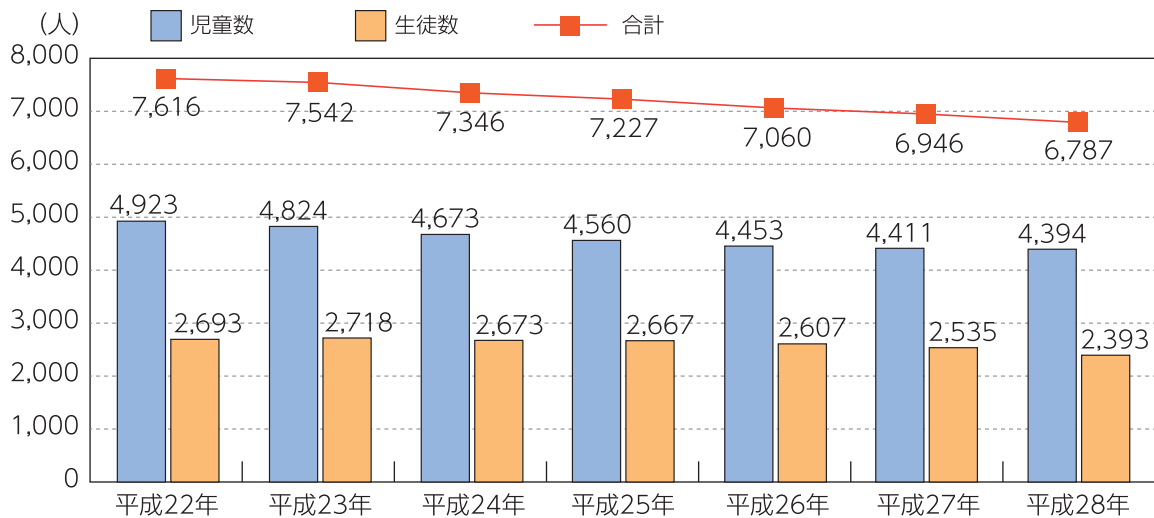
図表2-27. 商業施設(大規模小売店舗)の徒歩圏人口カバー率

	平成27年
商業施設(大店立地法)徒歩圏人口カバー率(%)	38.8
徒歩圏平均人口密度(人/ha)	17.0

※平成27年国勢調査のデータを基に図上計測で算出
※徒歩圏内とは、半径500m以内を指す。

エ 教育文化施設の状況

教育施設については、図表2-28に示すとおり、児童数、生徒数が微減傾向にはありますが、各地区に小学校が概ね設置されており、中学校は各振興局単位に1校ないしは2校という状況です。幼稚園、保育所や認定こども園については、今のところ、地区単位には概ね配置されている状況です(図表2-29を参照のこと)。



図表2-28. 児童・生徒数の推移

資料: 豊岡市統計書

図表2-29. 教育施設の徒歩圏人口カバー率

	平成27年
教育施設徒歩圏人口カバー率(%)	80.7
徒歩圏平均人口密度(人/ha)	6.9

※平成27年国勢調査のデータを基に図上計測で算出
※徒歩圏内とは、半径500m以内を指す。

オ 公園緑地の状況

都市公園については、図表2-30に示すとおり、市内に計25箇所が整備されており、全体での市民一人あたり面積は6.18㎡となっています。市民の生活に身近な街区公園については、14箇所、2.82haにとどまっており、一人あたり面積も僅か0.34㎡に過ぎません。

このような中で、本市では都市公園以外にも、豊かな自然資源を活かした広場緑地、オープンスペースの整備、充実に取り組んでいます。本市の貴重な自然資源である円山川流域の湿地には、その特徴を生かした水辺公園が整備されています。平成29(2017)年6月には加陽水辺公園が整備され、約12,000㎡の敷地に多目的広場、湿地、体験農園、ポケットパークなどからなる「湿地ふれあい広場」と、多目的室、屋根付広場などがある「交流館」を配置し、人と自然の共生を象徴する新たな拠点となることが期待されています。また、平成21(2009)年に開設された戸島湿地に、毎年コウノトリが営巣し、温もりのある生きた湿地となっています。

防災上の観点からは、一時避難場所となり得る集会所等は広く生活圏内に見られるものの、オープンスペースを有する身近な広場公園の充実も重要であり、生活圏内に公園や広場、緑地等のレクリエーションの場、憩いの場ができる限り確保されることが望まれます。

図表2-30. 都市公園の整備状況(平成28(2016)年)

公園種別		公園整備	面積	人口1人あたり 都市公園面積㎡
住区基幹公園	街区公園	14箇所	2.82ha	
	近隣公園	4箇所	8.40ha	
	地区公園	1箇所	5.40ha	
特殊公園		1箇所	4.50ha	
都市基幹公園	総合公園	3箇所	26.02ha	
	運動公園	1箇所	4.40ha	
都市緑地		1箇所	0.12ha	
合 計		25箇所	51.66ha	6.18㎡

資料：平成29年版 豊岡市統計書

(8) 災害リスク、防災まちづくりの状況

ア 土砂災害、水害等のリスクの状況

本市は、これまでに数多くの自然災害に見舞われてきました。近年では、平成16(2004)年10月の台風23号で甚大な被害(浸水戸数3,871戸)を受けたほか、毎年のように市内各地で、豪雨による大小様々な被害を受けています。

台風23号のような洪水被害を再び繰り返さないため、平成16(2004)年度から平成22(2010)年度までに、河川整備や築堤、内水対策、堤防強化などの河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)が実施されました。現在は、激特事業に引き続き、円山川の下流部等で治水対策が行われています。

さらに、土砂災害に対応するために、図表2-31に示すとおり、県では土砂災害防止法に基づく警戒区域(イエローゾーン)及び特別警戒区域(レッドゾーン)の指定が進められています。また、建築基準法第39条に基づく災害危険区域も指定されています。本市では、警戒区域の指定を終え、順次、特別警戒区域の指定が行われています。

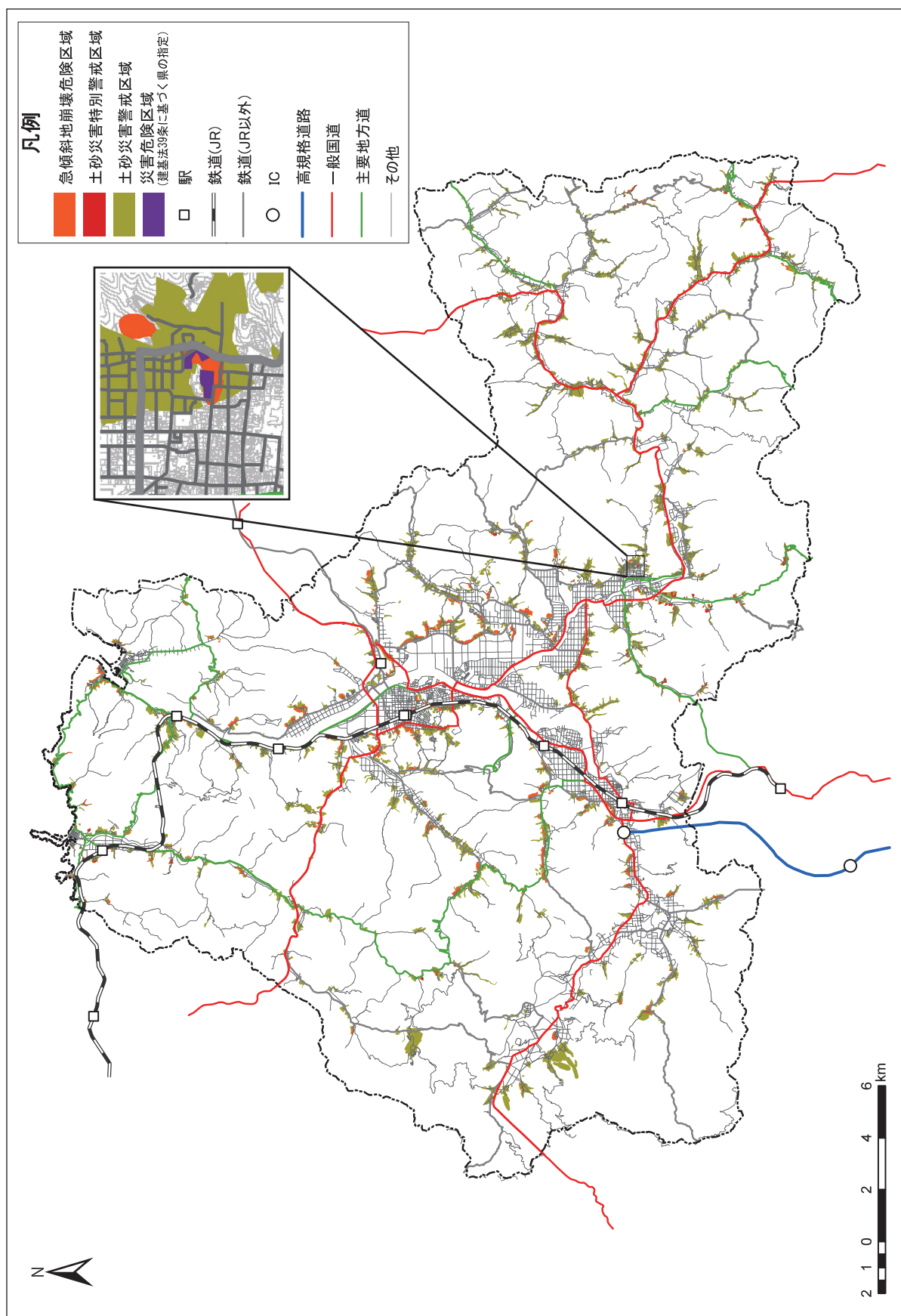
警戒区域の指定状況を見ると、本市の農山村部(中山間地域)の谷筋の多くで指定されており、この中には人家も多数含まれています。これらの地域では実際に、近年のゲリラ豪雨等によって土砂被害等も発生しており、ハード面、ソフト面の両面からの対応による災害リスクの軽減、安全に暮らせる住空間の確保が喫緊の課題となっています。

地震災害については、大正14(1925)年の北但大震災で甚大な被害を受けましたが、それ以降、平成7(1995)年の阪神・淡路大震災の際も特に大きな被害を受けることはなく今日に至っています。しかし、地震をはじめとする自然災害は、いつ何時発生するか分からないため、日頃から災害リスクの軽減、防災減災のまちづくりに取り組むことが重要となっています。

イ 防災まちづくりの状況

本市では、地域防災計画において災害時の対応についてとりまとめ、市内各地に指定緊急避難場所、指定避難所の指定を行っているほか、平成28(2016)年11月には、風水害・土砂災害防災マップ、標高マップ、避難路等を書き込める白図とその活用の手引きを作成し、地域の災害リスクとそれに対する適切な避難方法を示すなど自分の命は自分で守る自助の強化についての啓発に取り組んでいます。

さらに、町内会、各区における自主防災組織の設置に向けて「自主防災会規約」や「自主防災会防災計画」、「自主防災会初動マニュアル」のひな形を作成、公表し、市民の共助の取り組みも推進しつつあります。



図表2-31.急傾斜地崩壊危険区域等の分布状況(平成30(2018)年3月末現在)

資料:兵庫県、豊岡市

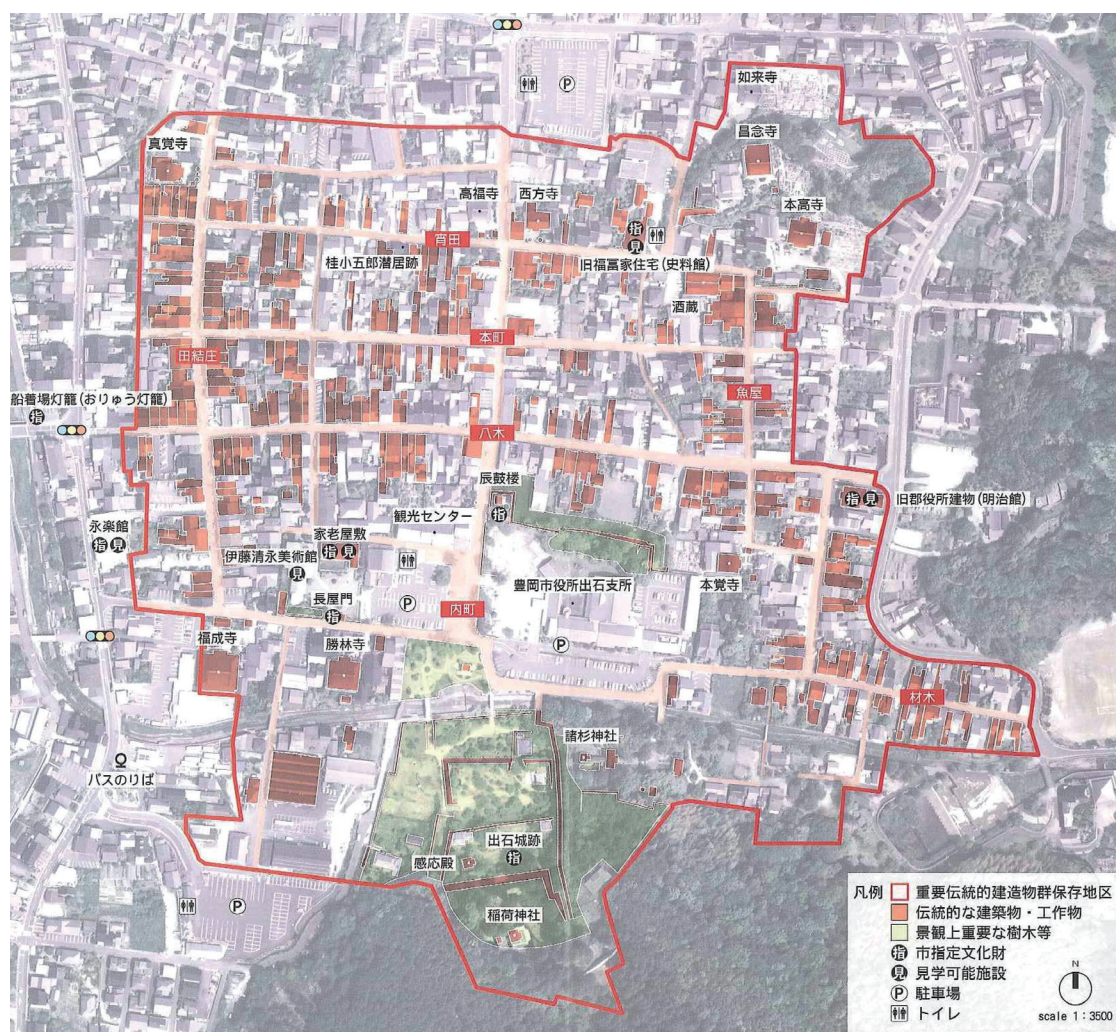
(9) 豊岡市らしい特徴的なまちづくり、地域づくりの状況

ア 景観まちづくり

本市は、城下町である出石、温泉街である城崎といった景観、町並みの特徴的な地域を有しています。

出石城下町地区は、古くから残る歴史的な町並みの保存整備に長年にわたって取り組んできたことが認められ、平成19(2007)年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました(図表2-32を参照のこと)。

そして、平成24(2012)年8月には景観法に基づく景観計画を策定しました。さらに、出石城下町地区や城崎温泉地区等を景観形成重点地区に指定し、特徴のある町並み景観づくり、誇りや魅力あふれる地域づくりを展開しています。出石城下町地区では、江戸時代からの町割りや通りの形状を壊さず、城下町として歴史的な町並みの保全を進めています。また、城崎温泉地区では、7つの外湯を中心にして、駅通り、北柳通り、南柳通り、湯の里通り、木屋町通り、上通り、文芸館通りの7つの通り毎の特徴を活かした町並み景観形成を進めています。そして、このような取り組みが、観光客、来訪者の増加にも繋がっています。



図表2-32. 出石城下町のまちなみ

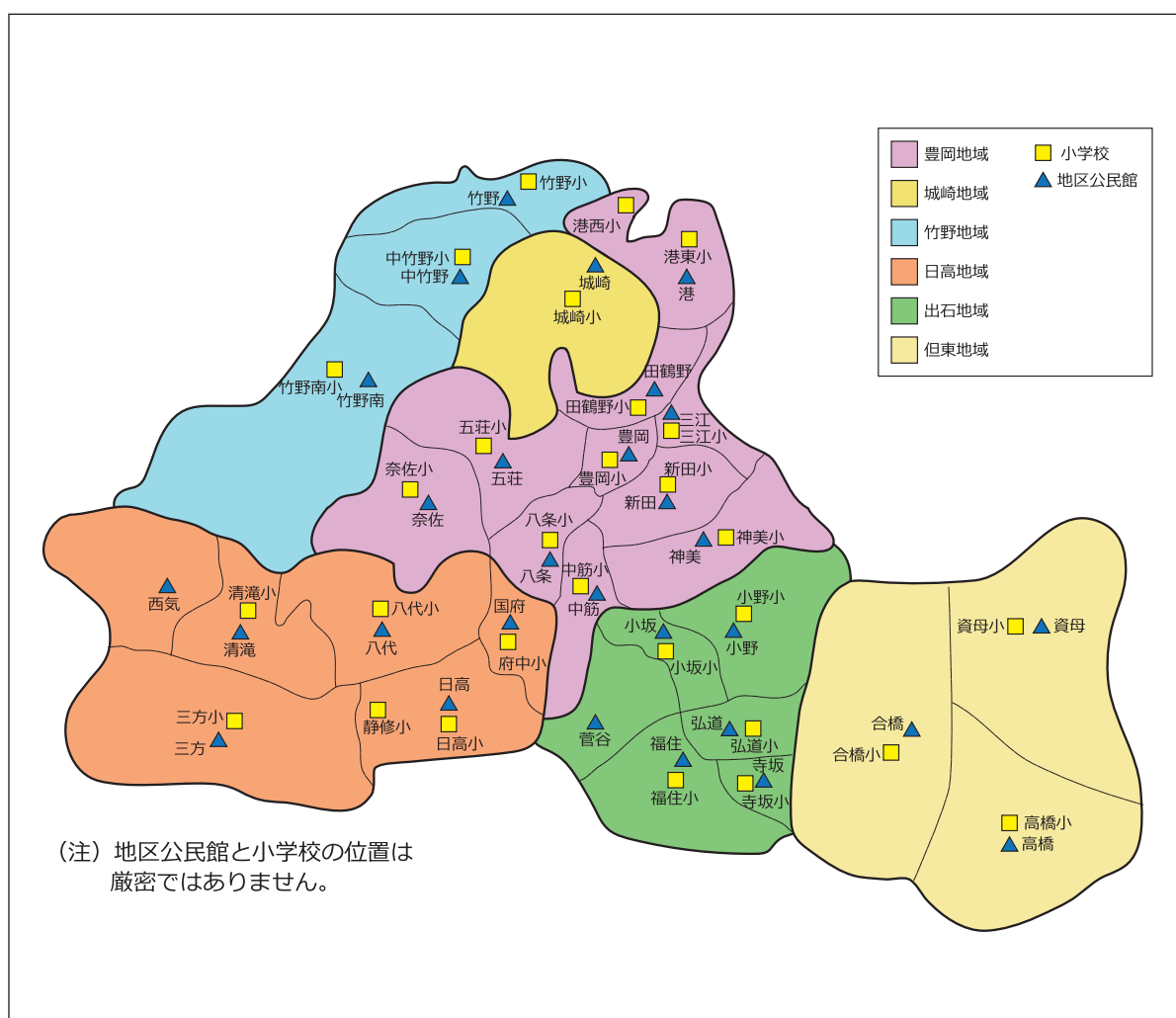
資料：パンフレット「出石城下町のまちなみ」

イ 新しい地域コミュニティによるまちづくりの展開

本市では旧地区公民館の範囲を基本に、全29地区で地域コミュニティづくりを進めています。平成29(2017)年4月から地区公民館は、地区コミュニティセンターに変わり、全29地区に地域コミュニティ組織が立ち上がりました(図表2-33を参照のこと)。

この新しい地域コミュニティによるまちづくりは、地域振興、地域福祉、地域防災、人づくりの4つの分野を地域コミュニティ組織が担う重点機能と位置付け、地区の実情に応じた様々なまちづくり、地域づくり活動を展開するというものです。

地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取り組みです。自分たちの地域は自分たちでつくるということを地域づくりの基本に置き、住民と行政が役割分担し、連携・協力し合う関係を築くこととしています。そして、地域と行政が事業や活動に対して継続的に取り組む「協働」の関係を一層強めることをめざしています。



図表2-33. 全29地区公民館(現・地区コミュニティセンター)の範囲と小学校の分布

資料:新しい地域コミュニティのあり方方針

2 市民のまちづくりに関する意識

(1) 第2次豊岡市総合計画策定に係るまちづくり市民アンケート (平成28(2016)年9月)結果より

本市では平成28(2016)年7月に、第2次豊岡市総合計画の策定にあたり、「豊岡市」がさらに住みよい魅力のあるまちになるよう、市民の意見を把握し、まちづくりのニーズを分析するためにアンケート調査を実施しています。

ア 調査の概要

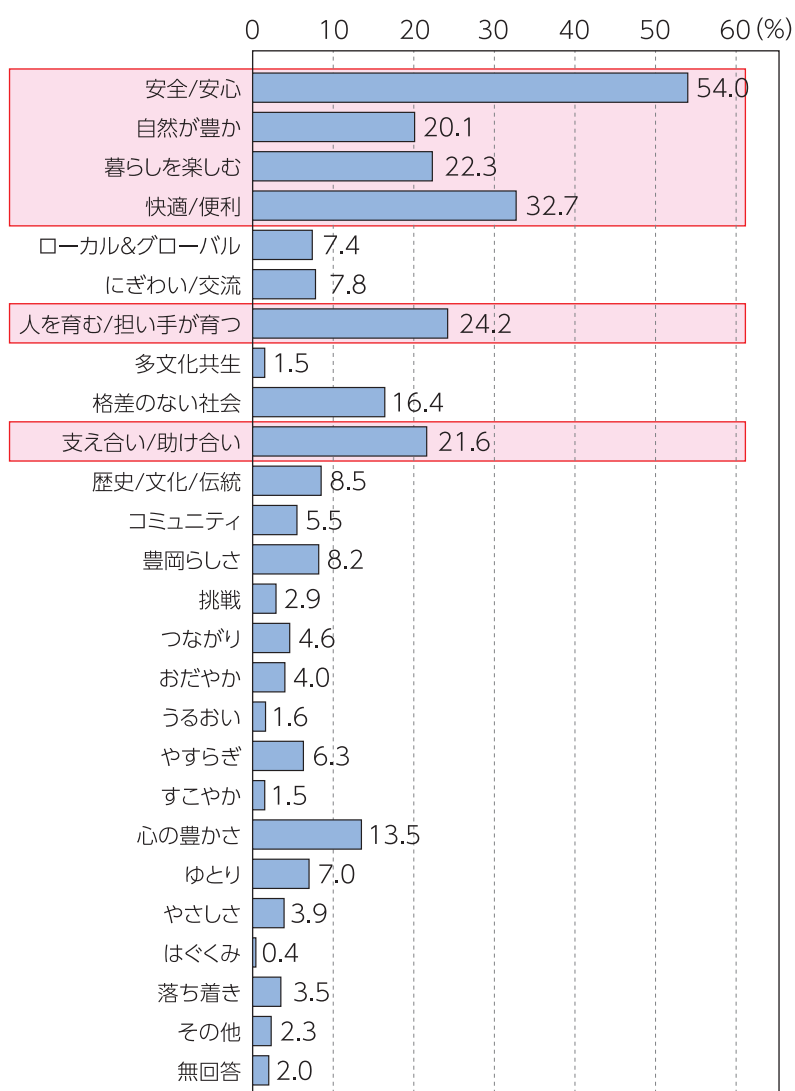
- ・調査対象： 市内に居住する18 歳以上の男女から無作為で3,000人を抽出
- ・調査方法： 郵送による配布、回収
- ・調査時期： 配布開始－平成28(2016)年7月12日 回収終了－平成28(2016)年7月27日
- ・回収状況： 回収数1,226件、回収率40.9%

イ 調査結果の概要

(ア) 豊岡市がめざす姿について

(1) 10年後の豊岡市について、あなたが期待する将来像としてふさわしいキーワードに3 つまで○をつけてください。
(複数回答)

将来像としてふさわしいキーワードは、「安全/安心」が54.0%で最も多く、次いで「快適/便利」が32.7%、「人を育む/担い手が育つ」が24.2%、「暮らしを楽しむ」が22.3%、「支え合い/助け合い」が21.6%、「自然が豊か」が20.1%となっています。



図表2-34. 市民アンケート結果1

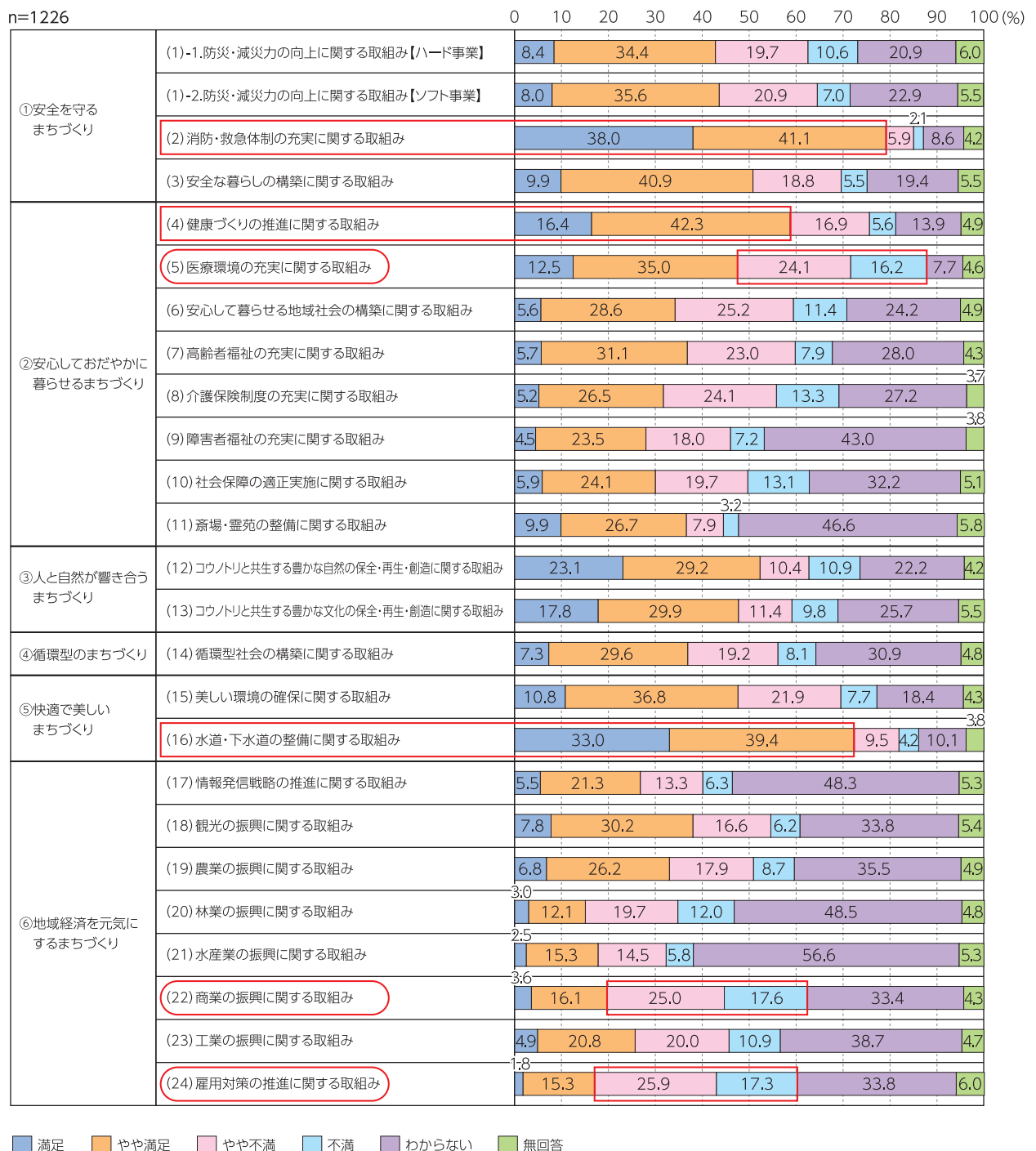
資料：第2次豊岡市総合計画策定に係る
まちづくり市民アンケート

(イ) 豊岡市が取り組んでいる施策に対する満足度について

満足度(満足+やや満足)の高い施策は、「(2)消防・救急体制の充実に関する取組み」が79.1%で最も多く、次いで「(16)水道・下水道の整備に関する取組み」が72.4%、「(4)健康づくりの推進に関する取組み」が58.7%となっています。

図表2-35. 市民アンケート結果2

資料: 第2次豊岡市総合計画策定に係るまちづくり市民アンケート

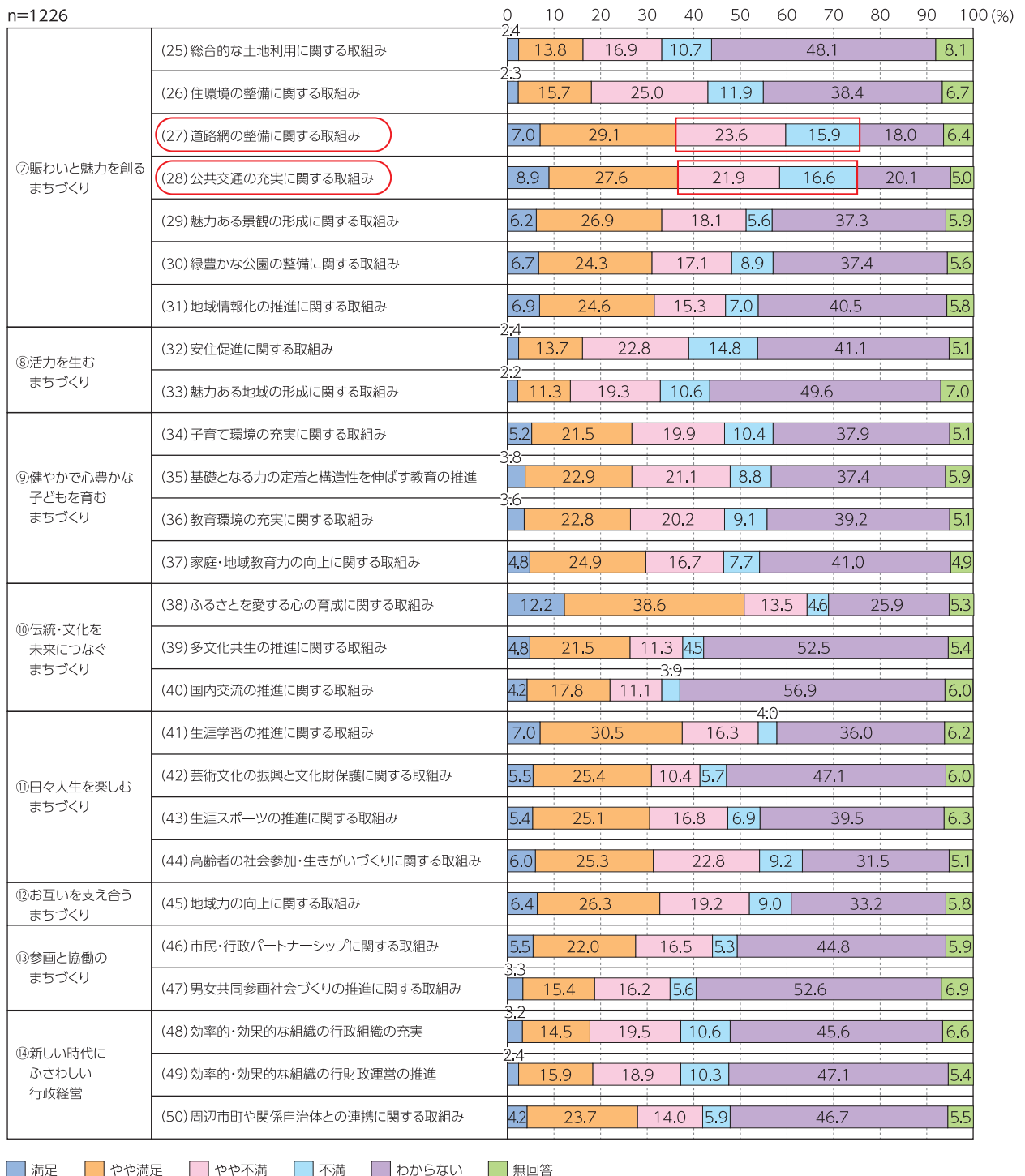


一方で、満足度(やや不満+不満)の低い施策は、「(24)雇用対策の推進に関する取組み」が43.2%で最も多く、次いで「(22)商業の振興に関する取組み」が42.6%、「(5)医療環境の充実に関する取組み」が40.3%となっています。

この内、まちづくりに関するものとしては、「(27)道路網の整備に関する取組み」が39.5%、「(28)公共交通の充実に関する取組み」が38.5%と満足度が低い結果となっています。

図表2-36. 市民アンケート結果3

資料:第2次豊岡市総合計画策定に係るまちづくり市民アンケート

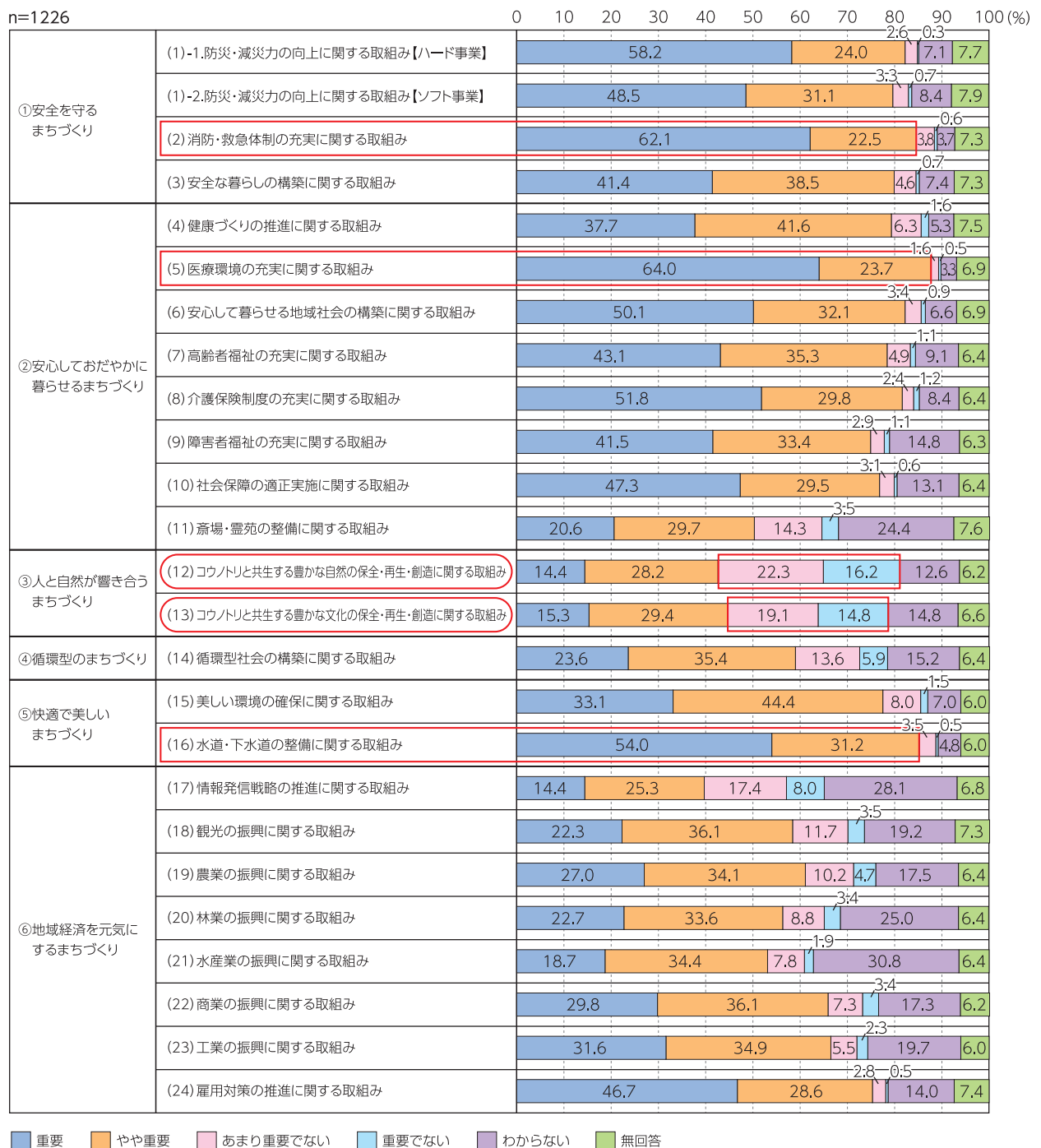


(ウ)本市の今後の施策の重要度について

重要度(重要+やや重要)の高い施策は、「(5)医療環境の充実に関する取組み」が87.7%で最も多く、次いで「(16)水道・下水道の整備に関する取組み」が85.2%、「(2)消防・救急体制の充実に関する取組み」が84.6%となっています。

図表2-37. 市民アンケート結果4

資料:第2次豊岡市総合計画策定に係るまちづくり市民アンケート

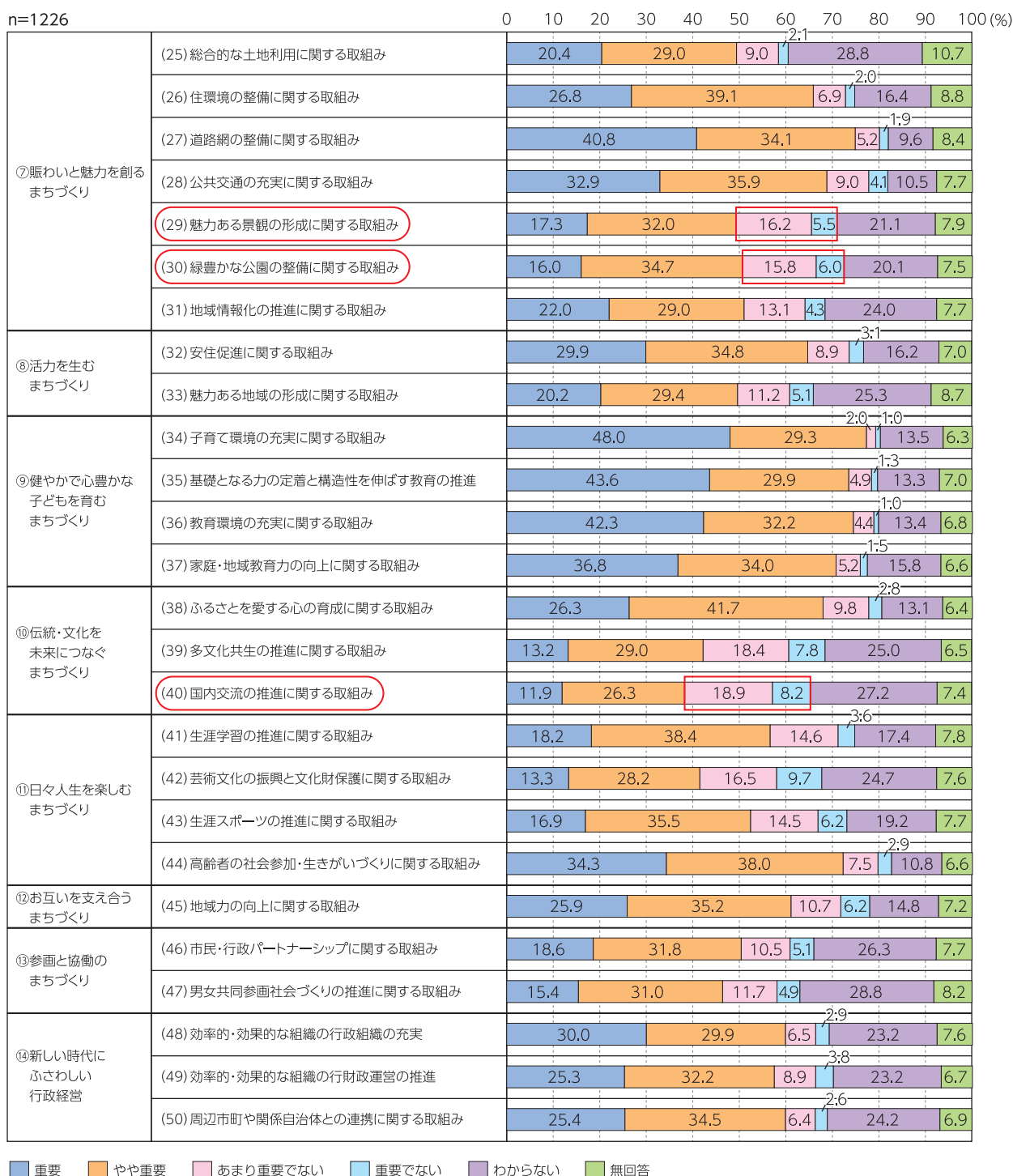


一方で、重要度(あまり重要でない+重要でない)の低い施策としては、「(12)コウノトリと共生する豊かな自然の保全・再生・創造に関する取組み」が38.5%で最も多く、次いで「(13)コウノトリと共生する豊かな文化の保全・再生・創造に関する取組み」が33.9%、「(40)国内交流の推進に関する取組み」が27.1%となっています。

この内、まちづくりに関するものとしては、「(30)緑豊かな公園の整備に関する取組み」が21.8%、「(29)魅力ある景観の形成に関する取組み」が21.7%とやや重要度が低い結果となっています。

図表2-38. 市民アンケート結果5

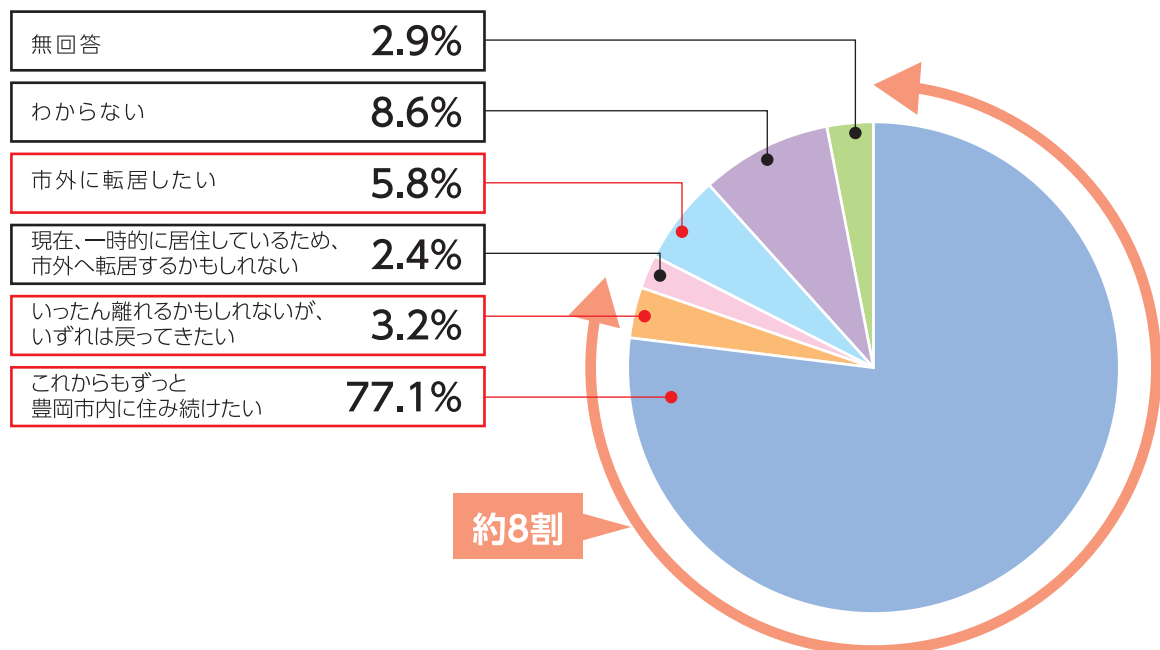
資料:第2次豊岡市総合計画策定に係るまちづくり市民アンケート



(エ) 豊岡市への定住意向について

(1) あなたは、今後も豊岡市に住み続けようと思いますか。また、その主な理由は何ですか。
それぞれあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

豊岡市への定住意向は、「これからもずっと豊岡市内に住み続けたい」が77.1%で最も多く、次いで「市外に転居したい」が5.8%、「いったん離れるかもしれないが、いずれは戻ってきたい」が3.2%となっており、「これからもずっと豊岡市内に住み続けたい」と「いったん離れるかもしれないが、いずれは戻ってきたい」を合計すると、回答者の約8割が住み続けたいという意向を持っています。



図表2-39. 市民アンケート結果6

資料：第2次豊岡市総合計画策定に係るまちづくり市民アンケート

年齢別にみると、『これからもずっと豊岡市内に住み続けたい』が「70 歳以上(88.9%)」で特に高くなっているほか、『いったん離れるかもしれないが、いずれは戻ってきたい』が「20～29 歳(23.2%)」、『市外に転居したい』が「20～29 歳(17.4%)」、『わからない』が「40～49 歳(20.4%)」で高くなっています。

地域別にみると、『市外に転居したい』、態度保留の『わからない』が、但東地域や出石地域で高くなっています。

転居したい理由としては、「日常生活(移動、買物等)が不便なため」が32.0%で最も多く、次いで「医療機関の利用が不便なため」が18.0%となっています。

図表2-40. 市民アンケート結果7

資料:第2次豊岡市総合計画策定に係るまちづくり市民アンケート

Q9.今後も豊岡市に住み続けたいか

人(%)

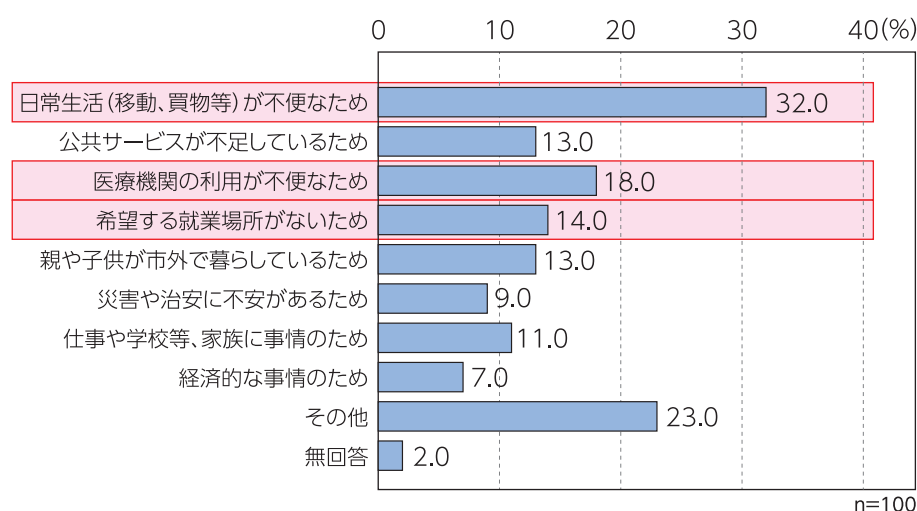
年齢別		調査数	これからもずっと豊岡市内に住みたい	いったん離れるかもしれないが、いずれは戻ってきたい	現在、一時的に居住しているため、市外へ転居するかもしれない	市外に転居したい	わからない	無回答
全 体		1,226(100.0)	945(77.1)	39(3.2)	29(2.4)	71(5.8)	106(8.6)	36(2.9)
18～19歳		11(100.0)	3(27.3)	5(45.5)	1(9.1)	1(9.1)	1(9.1)	0(0.0)
20～29歳		69(100.0)	24(34.8)	16(23.2)	6(8.7)	12(17.4)	9(13.0)	2(2.9)
30～39歳		98(100.0)	60(61.2)	5(5.1)	7(7.1)	14(14.3)	11(11.2)	1(1.0)
40～49歳		162(100.0)	105(64.8)	6(3.7)	5(3.1)	13(8.0)	33(20.4)	0(0.0)
50～59歳		186(100.0)	155(83.3)	2(1.1)	3(1.6)	5(2.7)	17(9.1)	4(2.2)
60～69歳		314(100.0)	260(82.8)	3(1.0)	4(1.3)	15(4.8)	25(8.0)	7(2.2)
70歳以上		369(100.0)	328(88.9)	2(0.5)	1(0.3)	9(2.4)	10(2.7)	19(5.1)

地域別		調査数	これからもずっと豊岡市内に住みたい	いったん離れるかもしれないが、いずれは戻ってきたい	現在、一時的に居住しているため、市外へ転居するかもしれない	市外に転居したい	わからない	無回答
豊岡地域		603(100.0)	465(77.1)	18(3.0)	13(2.2)	39(6.5)	55(9.1)	13(2.2)
城崎地域		51(100.0)	39(76.5)	1(2.0)	3(5.9)	2(3.9)	4(7.8)	2(3.9)
竹野地域		67(100.0)	53(79.1)	2(3.0)	2(3.0)	4(6.0)	5(7.5)	1(1.5)
日高地域		240(100.0)	196(81.7)	5(2.1)	6(2.5)	10(4.2)	14(5.8)	9(3.8)
出石地域		163(100.0)	125(76.7)	7(4.3)	2(1.2)	6(3.7)	20(12.3)	3(1.8)
但東地域		76(100.0)	53(69.7)	5(6.6)	1(1.3)	7(9.2)	7(9.2)	3(3.9)

全体より10%以上高い 全体より10%以上低い

(3) 転居したい理由:「現在、一時的に居住しているため、市外へ転居するかもしれない」または「市外に転居したい」を選んだ方のみ(複数回答)

転居したい理由は、「日常生活(移動、買物等)が不便なため」が32.0%で最も多く、次いで「医療機関の利用が不便なため」が18.0%、「希望する就業場所がないため」が14.0%となっています。



(2) 2017年度豊岡市政策モニタリング調査(H29.7)結果より

本市では、2013年度からより実効性の高い新たな行政評価の試みとして、「協働型プログラム評価（「戦略的政策評価」と呼称）」を導入しています。そして、その評価活動の一環として、2014年度から「政策モニタリング調査」を実施しており、以下の8つの重点施策の進捗状況をモニタリングするため、アンケート調査を行っています。

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| ①安全・安心のまち | ②健康長寿のまち | ③環境に優しいまち |
| ④おもてなし観光のまち | ⑤交通の便利なまち | ⑥子育てに優しいまち |
| ⑦エコ農業のまち | ⑧住みたいと思うまち | |

ア 調査の概要

- ・調査対象： 市内在住の方から 18 歳以上の 3,000 人を無作為抽出
- ・調査方法： 郵送配布、郵送回収
- ・調査時期： 配布開始ー平成 29(2017) 年 4 月 20 日 回収終了ー平成 29(2017) 年 5 月 22 日
- ・回収状況： 回収数 1,369 件、回収率 45.6%

イ 調査結果の概要

(ア) 2016年度調査と 2017年度調査の比較

まちづくりに関連する内容としては、「公共交通を使うように心がけている」が、2017年度では増加しています。しかし、「豊岡で暮らす価値と魅力度」については低下している状況です。

表1: 2016-2017年度データの比較(t検定)		2016年度 平均値	2017年度 平均値	(2017-2016) 平均値の差	統計的 有意性
安全・安心	問7:災害時「助け合い行動」がとれる	3.46	3.45	-0.01	
	問8:防災訓練に参加したことがある	2.21	2.49	-0.02	
	(問9:災害への備え…消火器、火災報知器など複数選択)				
健康長寿	問10:自分は健康だと思う	2.60	2.62	0.02	
	(問11:健康づくりのところがけ…食生活、歯の健康など複数選択)				
	問12:健康のために運動をしている	2.40	2.28	-0.12	有[減]
	問13:運動を継続している期間	3.51	3.54	0.03	
	問14:健康づくりをする仲間がいる	2.52	2.43	-0.09	
環 境	問15:健康づくりの環境が整っている	2.87	2.89	0.02	
	問16:豊岡市は環境に優しいまちだ	3.21	3.21	0.00	
	問17:豊岡市は経済的に豊かになっている	2.34	2.39	0.05	
	問18:日常生活で省エネを意識している	3.66	3.65	-0.01	
	問19:環境に配慮した商品を購入している	3.17	3.17	0.00	
おもてなし	問20:環境への取組みは経済にもプラスだ	3.44	3.39	-0.05	
	問21:豊岡市は観光客で活気あるまちだ	2.64	2.66	0.02	
	問22:自分の地域にもっと観光客が来てほしい	3.54	3.47	-0.07	有[減]
	問23:市外の人に豊岡を観光先として勧めたい	3.42	3.32	-0.10	有[減]
	(問24:観光ボランティアに関わっているか…はい、いいえを選択)				
交 通	問25:観光ボランティアに関わってみたい	2.50	2.48	-0.02	
	(問26:豊岡市の魅力的な観光資源…城崎温泉、城下町出石など順位選択)				
	問27:豊岡市の公共交通は便利だ	2.13	2.11	-0.02	
	問28:公共交通を使うよう心がけている	2.03	2.12	0.09	有[増]
	(問29:公共交通機関を使う目的…通勤、通学、通院などから1つ選択) (問30:必要な公共交通…バス、タクシーなど順位選択) (問31:ビジネス、レジャーの主な移動手段…鉄道、バスなどから1つ選択)				
子 育 て	問32:豊岡市は子育てに優しいまちだ	2.94	2.96	0.02	
	(問33:子育てボランティアに関わっているか…はい、いいえを選択)				
	問34:子育てボランティアに関わってみたい	2.78	2.72	-0.06	
	問35:市の子育て支援サービスを活用している	3.09	3.13	0.04	
	問36:子育てを楽しんでいる	3.30	3.29	-0.01	
エコ農業	問37:無農薬・減農薬志向	3.42	3.37	-0.05	
	問38:コウノトリの舞認知度	2.10	2.06	-0.04	
	(問39:購入しない理由…価格、食味など複数選択)				
住みたい	問40:豊岡で暮らす価値と魅力度	3.25	3.16	-0.09	有[減]
	問41:将来帰ってきてほしい	3.49	3.52	0.03	
	問42:市外若者の転入は良いことだ	3.88	3.88	0.00	

図表2-41. 政策モニタリング結果1

資料：2017年度豊岡市政策モニタリング調査

注釈) 下記に例示するよう回答を点数化し、平均点を算出した。

- | |
|------------|
| とてもそう思う:5点 |
| そう思う:4点 |
| 分からない:3点 |
| 思わない:2点 |
| 全く思わない:1点 |

(イ)まちづくりに関連する項目の調査結果

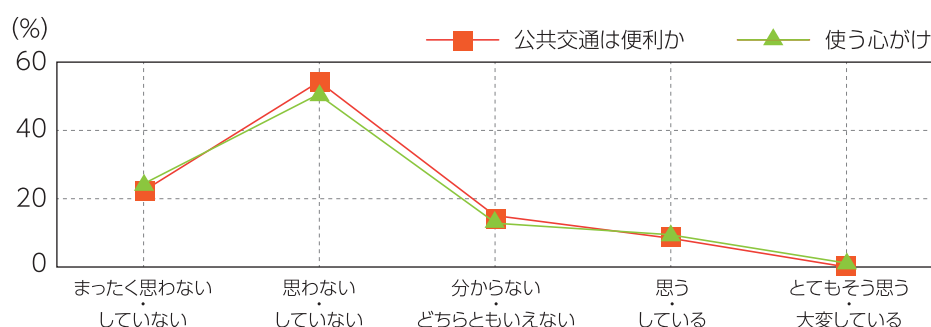
公共交通の利用については、「使うように(たいへん)心がけている」が増加しているが、利便性については、「便利とはまったく思わない」、「思わない」が70%以上を占める結果となっています。

必要な公共交通については、全体としてはバスが必要と考える市民が多く、次いで鉄道を支持する声も多くなっています。また、乗合タクシーへのニーズも高くなっています。

図表2-42. 政策モニタリング結果2

資料：2017年度豊岡市政策モニタリング調査

【問 27、28】公共交通の利用について



小学校区と必要な公共交通

□ は上位3位

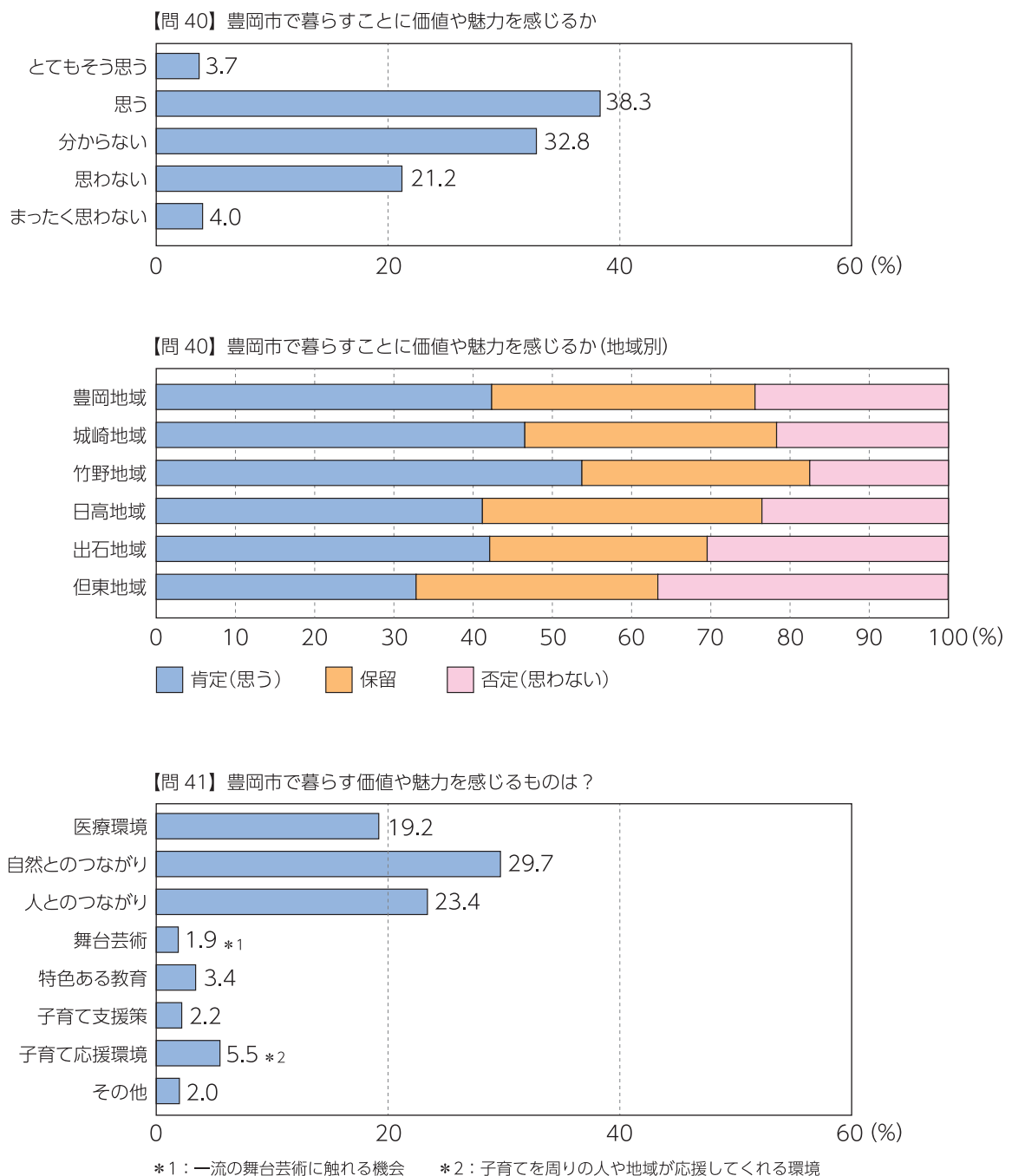
	バ ス	特急バス	タクシー	乗合タクシー	鉄 道	飛行機	その他
豊 岡	28.3%	13.4%	11.6%	11.1%	26.7%	7.5%	1.5%
八 条	31.7%	11.3%	16.1%	12.4%	24.7%	3.8%	0.0%
三 重	34.3%	7.9%	17.1%	17.9%	17.1%	3.6%	2.1%
田鶴野	32.5%	10.4%	15.6%	15.6%	20.8%	3.9%	1.3%
五 莊	28.9%	9.5%	15.9%	13.4%	21.9%	8.2%	2.2%
新 田	29.3%	12.9%	9.5%	17.2%	21.6%	6.9%	2.6%
中 筋	34.1%	8.8%	17.6%	24.2%	11.0%	2.2%	2.2%
奈 佐	32.7%	3.6%	12.7%	21.8%	20.0%	5.5%	3.6%
港 東	36.7%	4.1%	18.4%	22.4%	18.4%	0.0%	0.0%
港 西	35.0%	10.0%	15.0%	17.5%	20.0%	0.0%	2.5%
神 美	32.6%	9.5%	14.7%	20.0%	16.8%	6.3%	0.0%
城 崎	30.7%	11.7%	14.7%	10.4%	27.6%	4.3%	0.6%
竹 野	31.9%	4.3%	18.8%	11.6%	30.4%	2.9%	0.0%
中竹野	32.0%	0.0%	20.0%	12.0%	24.0%	8.0%	4.0%
竹野南	34.2%	7.9%	18.4%	23.7%	15.8%	0.0%	0.0%
府 中	31.0%	11.0%	13.5%	14.2%	23.9%	5.8%	0.6%
八 代	33.3%	0.0%	22.2%	33.3%	8.3%	0.0%	2.8%
日 高	28.3%	8.8%	19.1%	15.1%	23.9%	4.0%	0.8%
静 修	35.3%	8.8%	17.6%	17.6%	20.6%	0.0%	0.0%
三 方	32.4%	7.8%	18.6%	22.5%	13.7%	2.9%	2.0%
清 滝	33.3%	8.3%	19.2%	22.5%	12.5%	2.5%	1.7%
弘 道	29.5%	12.8%	14.8%	22.8%	17.4%	2.0%	0.7%
福 住	25.5%	15.7%	18.6%	15.7%	18.6%	2.9%	2.9%
寺 坂	32.3%	12.5%	18.8%	12.5%	25.0%	0.0%	0.0%
小 坂	30.8%	3.8%	19.2%	19.2%	20.5%	5.1%	1.3%
小 野	29.5%	15.9%	13.6%	15.9%	20.5%	0.0%	4.5%
合 橋	28.0%	8.6%	20.4%	23.7%	14.0%	0.0%	5.4%
高 橋	33.3%	2.6%	25.6%	20.5%	12.8%	0.0%	5.1%
資 母	34.3%	4.5%	26.9%	22.4%	9.0%	0.0%	3.0%
市全域	30.6%	9.7%	16.3%	16.5%	20.8%	4.4%	1.6%

豊岡で暮らすことに価値や魅力を感じていると回答した市民は42.0%であり、2016年度のモニタリング調査の46.4%からは4.4%減少しました。そして、地域ごとに再集計したところ、「思う・とても思う」肯定派の割合が最も高いのは竹野(53.8%)であり、唯一5割を超えていました。一方で「思わない・全く思わない」否定派の割合が高いのは、但東(36%)・出石(30%)でした。但東地域は昨年度も否定派(28%)が最も多く、出石地域も昨年に比べ否定派(18.9%)が増加しています。

豊岡で暮らすことに価値や魅力を感じていると回答した市民に、その魅力を尋ねたところ、「自然」が最も多く29.7%でした。続いて、「人とのつながり」、「医療環境」が多いという結果でした。

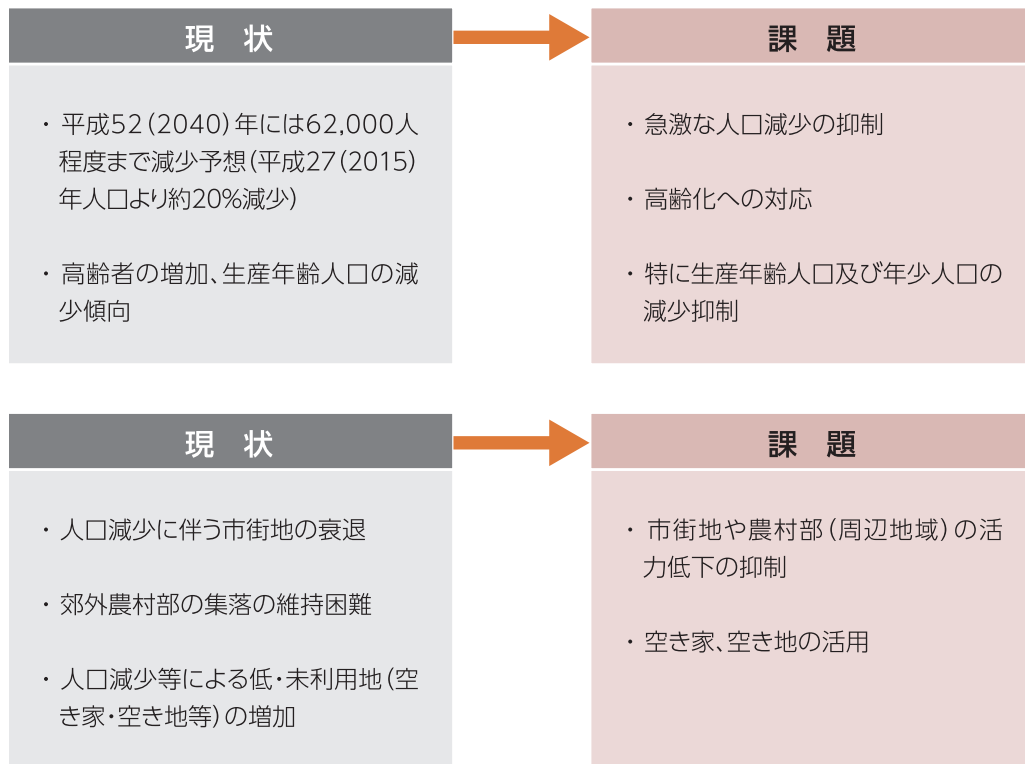
図表2-43. 政策モニタリング結果3

資料：2017年度豊岡市政策モニタリング調査

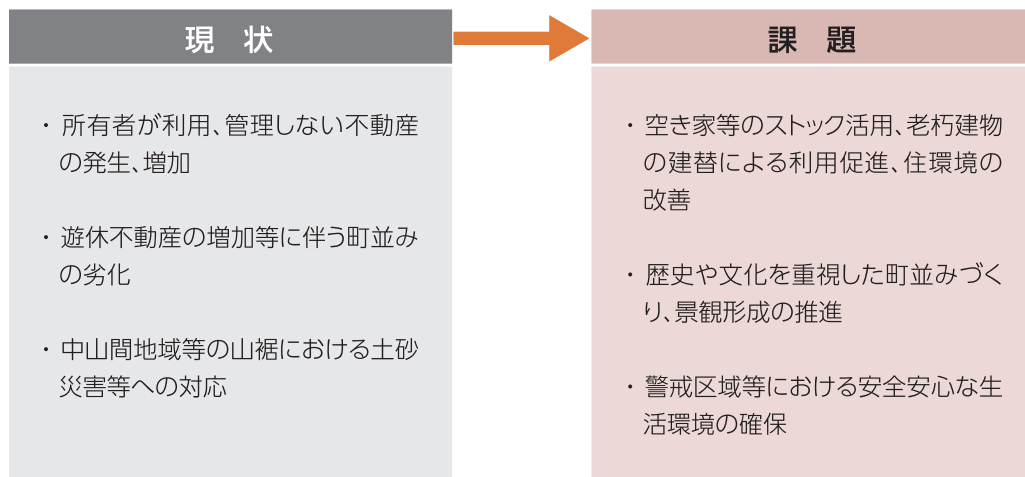


3 まちづくりの現状及び課題

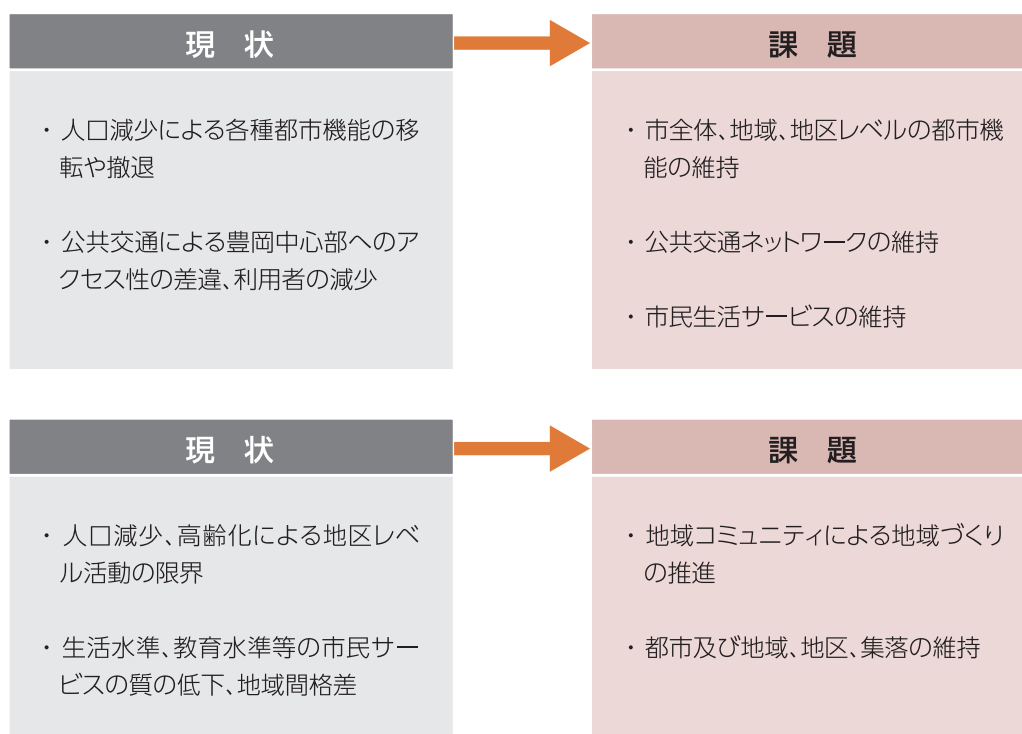
(1) 人口動向に関する現状及び課題



(2) 土地利用等の都市の構造に関する現状及び課題



(3) 都市機能、公共交通等の生活基盤に関する現状及び課題



(4) まちづくりの主要課題のまとめ

都市の概況、上位関連計画、まちづくりの意向等から見て、本市のまちづくり上の課題は、以下の通り、大きく8つに整理されます。

